

令和7年度
事業報告書



学校法人 四天王寺学園

目 次

1. 法人の概要	1
(1) 基本情報	1
(2) 建学の精神	1
(3) 学校法人の沿革	2
(4) 設置する学校・学部・学科等	4
(5) 学校・学部・学科等の学生・生徒・児童数の状況	5
(6) 収容定員充足率	5
(7) 役員の概要	6
(8) 評議員の概要	7
(9) 教職員の概要	7
(10) 納付金一覧表	8
2. 事業の概要	8
四天王寺大学・大学院・短期大学部	8
四天王寺高等学校・中学校	15
四天王寺東高等学校・中学校	24
四天王寺小学校	30
3. 財務の概要	35
(1) 決算の概要	35
(2) その他の決算状況	44
(3) 経営状況の分析	46

1. 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称

学校法人 四天王寺学園

②主たる事務所の住所・電話番号・FAX番号

住 所：大阪府大阪市天王寺区四天王寺一丁目11番18号

電 話 番 号：06-6773-0140

FAX 番 号：06-6773-0241

ホームページ：<http://www.shitennoji.ac.jp/gakuen/>

(2) 建学の精神

き え かつごう だんなくしゅぜん そくしょうむじょうだいぼだいしょ
「帰依渴仰 断悪修善 速証無上大菩提処」

聖徳太子は、推古元年（西暦 593 年）に四天王寺を創建し、敬田院とされました。その設立の精神は「帰依渴仰 断悪修善 速証無上大菩提処」であり、それは、全ての生きとし生けるものが、仏教に帰依し、深く信じ、悪を断ち、善を修め、速やかに仏の悟りを得て、その境地に達することのできる場所を意味します。また、敬田院と同時に、国家の基礎であり、仏教の重要な教えである慈悲行の実践の場所として、施薬院・療病院・悲田院を設立して四箇院とされました。敬田院で研鑽を積んだ人材が、他の三院の運営に関わり、平和で人々が幸せに暮らせる国づくりに尽力しました。その敬田院の精神を建学の精神として、大正 11 年（西暦 1922 年）に聖徳太子 1300 年御聖忌記念を機として、学校法人 四天王寺学園は創立されました。

創立以後、聖徳太子のご偉業の中から、三経義疏（勝鬘経義疏・維摩経義疏・法華経義疏）を撰述されたことを受け、特に勝鬘夫人・維摩居士を範とした教育を打ち出し、また聖徳太子が制定された十七条憲法に準拠して学園訓を制定しました。十七条憲法の第一条「和を以て貴しとなす」に象徴される「和の精神」により、道德観・倫理観を涵養し、勉学・スポーツ等において自己を徹底して磨く教育を実践してきました。社会には時代ごとに国内外を問わずあらゆる課題が存在しますが、その課題解決のために、利他の心を起こし、磨き上げた自己の知識・技能をもって、人々に寄り添える人材を育成することが本学園の使命であります。

学園訓

- 一．和を以て貴しとなす
- 一．四恩に報いよ
 - 四恩とは
 - 国の恩
 - 父母の恩
 - 世間の恩
 - 仏の恩なり
- 一．誠実を旨とせよ
- 一．礼儀を正しくせよ
- 一．健康を重んぜよ

(3) 学校法人の沿革

年月	沿革
推古元年 大正11年4月 昭和3年2月	聖徳太子が四天王寺敬田院（四箇院の中心）を創設 聖徳太子1300年御聖忌記念事業として天王寺高等女学校を設立 大阪市天王寺区元町17番地に移転 （現：大阪市天王寺区四天王寺一丁目11番73号）
昭和8年12月	財団法人天王寺高等女学校認可
昭和22年4月	新学制実施に伴い四天王寺中学校を設立
昭和23年4月	新学制実施に伴い天王寺高等女学校を四天王寺高等学校と改称
昭和23年12月	財団法人四天王寺学園に組織変更認可
昭和26年3月	学校法人四天王寺学園に組織変更認可
昭和32年4月	四天王寺学園女子短期大学保健科を設置（平成21年9月廃止）
昭和33年4月	四天王寺学園女子短期大学被服科を設置（昭和61年3月廃止）
昭和37年4月	四天王寺学園女子短期大学食物科を設置 （昭和42年1月食物栄養科に科名変更、昭和61年12月廃止）
昭和42年4月	四天王寺女子大学文学部を設置（仏教学科・教育学科・文学科）（人文社会学部教育学科を平成23年9月廃止、人文社会学部仏教学科を平成25年9月廃止）四天王寺学園女子短期大学を四天王寺女子短期大学と改称、保育科を設置、食物科を食物栄養科と科名変更 四天王寺女子大学、四天王寺女子短期大学を大阪府羽曳野市埴生野1308番地（現 大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号）に移転
昭和49年4月	四天王寺女子大学文学部史学科を設置（平成元年3月廃止） 四天王寺女子大学文学部を国文学・英米文学に専攻分離（平成元年3月廃止） 四天王寺高等学校に標準コース、英数コースを設置
昭和55年4月	四天王寺中学校に標準コース、英数コースを設置
昭和56年4月	法人事務所所在地が住居表示変更に伴い大阪市天王寺区四天王寺1丁目11番73号に変更
昭和56年4月	四天王寺女子大学を四天王寺国際仏教大学と改称、男女共学制へ 四天王寺女子短期大学を四天王寺国際仏教大学短期大学部と改称
昭和58年4月	四天王寺国際仏教大学文学部言語文化学科（日本語日本文化専攻・英語英米文化専攻・アラビア語アラビア文化専攻、平成29年3月廃止）を設置

昭和 59 年 4 月	四天王寺国際仏教大学短期大学部生活科学科・英語科(平成 21 年 9 月廃止)設置 四天王寺国際仏教高等学校・四天王寺国際仏教中学校を大阪府羽曳野市埴生野 1260 番地(現 大阪府羽曳野市学園前三丁目 1 番 1 号)に設置 四天王寺高等学校標準コース内に特技組を設置
昭和 61 年 3 月	四天王寺国際仏教大学短期大学部被服科を廃止
昭和 61 年 4 月	四天王寺国際仏教大学文学部社会学科を設置
昭和 61 年 12 月	四天王寺国際仏教大学短期大学部食物栄養科を廃止
平成 元年 3 月	四天王寺国際仏教大学文学科(国文学専攻・英米文学専攻)及び史学科を廃止
平成 2 年 4 月	四天王寺国際仏教高等学校・四天王寺国際仏教中学校を四天王寺羽曳丘高等学校・四天王寺羽曳丘中学校に改称
平成 4 年 4 月	四天王寺高等学校に特技コースを設置
平成 6 年 4 月	四天王寺羽曳丘高等学校・四天王寺羽曳丘中学校に通学制導入
平成 9 年 4 月	四天王寺羽曳丘中学校を男女共学制へ
平成 10 年 4 月	四天王寺国際仏教大学文学部人間福祉学科を設置
平成 10 年 9 月	法人事務所所在地を大阪府大阪市天王寺区四天王寺一丁目 11 番 18 号に変更
平成 12 年 4 月	四天王寺国際仏教大学文学部を人文社会学部に改称 四天王寺羽曳丘高等学校を男女共学制へ
平成 13 年 4 月	四天王寺国際仏教大学短期大学部生活科学科に生活科学専攻・生活福祉専攻を設置
平成 15 年 4 月	四天王寺国際仏教大学大学院人文社会学研究科人間福祉学専攻博士課程(前期・後期)を設置 四天王寺国際仏教大学短期大学部を男女共学制へ 四天王寺高等学校特技コースを特技・芸文コースに改称
平成 18 年 4 月	四天王寺国際仏教大学人文社会学部人間福祉学科に社会福祉専攻・保育専攻を設置
平成 19 年 4 月	四天王寺高等学校標準コースを廃止
平成 20 年 4 月	四天王寺中学校標準コース、英数コースを英数Ⅰコース、英数Ⅱコースに改称 四天王寺大学大学院、四天王寺大学及び四天王寺大学短期大学部と改称、四天王寺大学に人文社会学部言語文化学科中国語アジア文化専攻(アラビア語アラビア文化専攻から名称変更)、英語文化学科(平成 29 年 3 月廃止)、教育学部教育学科、経営学部経営学科を設置
平成 21 年 4 月	四天王寺学園小学校を大阪府藤井寺市春日丘三丁目 1 番 78 号に設置
平成 22 年 4 月	四天王寺大学短期大学部生活科学科を生活ナビゲーション学科に名称変更、生活科学専攻をライフデザイン専攻に名称変更 四天王寺高等学校特技・芸文コースをスポーツ・芸術コースに改称
平成 24 年 4 月	四天王寺大学人文社会学部日本学科、国際キャリア学科設置、人間福祉学科社会福祉専攻を健康福祉専攻に名称変更 四天王寺大学短期大学部生活ナビゲーション学科生活福祉専攻をライフケア専攻に名称変更(令和 5 年 3 月廃止)
平成 26 年 4 月	四天王寺大学教育学部教育学科小学校・幼児教育コースを小学校・幼児保育コースに名称変更し、保育士養成課程を設置 四天王寺高等学校に理数コース、四天王寺中学校に医志コース設置 四天王寺学園中学校を大阪府藤井寺市春日丘三丁目 1 番 78 号に設置
平成 27 年 4 月	四天王寺中学校に文化・スポーツコースを設置
平成 28 年 3 月	四天王寺羽曳丘中学校廃止
平成 28 年 4 月	四天王寺大学経営学部経営学科に公共経営専攻・企業経営専攻を設置
平成 29 年 4 月	四天王寺学園高等学校を大阪府藤井寺市春日丘三丁目 1 番 78 号に設置 四天王寺学園小学校を四天王寺小学校と改称 四天王寺高等学校に医志コースを設置
平成 30 年 4 月	四天王寺学園高等学校の考究コース、探究コース、学究コースを S 特進コース、特進コース、進学コースに改編 四天王寺学園中学校の小中一貫コース、中高一貫コースを S 特進コース、進学

平成 31 年 3 月 平成 31 年 4 月	コースに改編 四天王寺羽曳丘高等学校廃止 四天王寺大学看護学部看護学科を設置 四天王寺大学教育学部教育学科小学校・幼児保育コース、中学校英語・小学校コース、保健教育コースを小学校教育コース、幼児教育保育コース、中高英語教育コース、保健教育コースに改編
令和 2 年 4 月	四天王寺学園高等学校・四天王寺学園中学校を四天王寺東高等学校・四天王寺東中学校と改称 四天王寺東高等学校の S 特進コース、特進コース、進学コースをⅢコース、Ⅱコース、Ⅰコースへ改編
令和 3 年 4 月	四天王寺大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程（前期・後期）を設置 四天王寺大学教育学部教育学科中高英語教育コースを英語教育・小学校高コースに名称変更 四天王寺中学校の英数Ⅰコース、英数Ⅱコース、医志コース、文化・スポーツコースを英数 S コース、英数コース、医志コース、文化・スポーツコースに改編
令和 4 年 4 月	四天王寺大学人文社会学部人間福祉学科健康福祉専攻を人間福祉学科に名称変更 四天王寺大学短期大学部生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻をライフデザイン学科に名称変更 四天王寺高等学校の理数コース、英数コース、スポーツ・芸術コースを文理選抜コース、文理コース、文化・スポーツコースに改編
令和 5 年 4 月	四天王寺東中学校の S 特進コース、進学コースを S 特進コース、特進コースに改編
令和 6 年 4 月	四天王寺大学文学部日本学科、国際コミュニケーション学科設置 四天王寺大学人文社会学部を社会学部に名称変更 四天王寺大学教育学部教育学科小学校教育コース、幼児教育保育コース、英語教育・小学校コース、保健教育コースを学校教育コース、幼児教育保育コースに改編

（４）設置する学校・学部・学科等

学校名	学部・学科等	所在地
四天王寺大学	文学部 社会学部 教育学部 経営学部 看護学部	大阪府羽曳野市学園前三丁目 2-1
四天王寺大学大学院	人文社会学研究科 看護学研究科	
四天王寺大学短期大学部	保育科 ライフデザイン学科	
四天王寺高等学校	全日制普通科	大阪市天王寺区四天王寺一丁目 11-73
四天王寺中学校	全日制普通科	大阪市天王寺区四天王寺一丁目 11-73
四天王寺東高等学校	全日制普通科	大阪府藤井寺市春日丘三丁目 1-78
四天王寺東中学校	全日制普通科	大阪府藤井寺市春日丘三丁目 1-78
四天王寺小学校	—	大阪府藤井寺市春日丘三丁目 1-78

(5) 学校・学部・学科等の学生・生徒・児童数の状況

令和7年5月1日現在

学校名			入学 定員	編入学 定員	入学 者数	収容 定員	現員数
四天王寺大学	文学部	日本学科	100	—	109	200	183
		国際コミュニケーション学科	90	—	76	180	116
	社会学部	社会学科	160	—	187	320	350
		人間福祉学科	70	—	48	140	85
	人文社会学部	日本学科	—	—	—	200	156
		国際キャリア学科	—	—	—	180	113
		社会学科	—	—	—	320	316
		人間福祉学科	—	—	—	140	109
	教育学部	教育学科	260	10	300	1,020	1,135
	経営学部	経営学科	160	—	235	640	767
	看護学部	看護学科	100	—	119	340	395
大 学 合 計			940	10	1,074	3,680	3,725
四天王寺大学大学院		人文社会学研究科(前期)	10	—	0	20	2
		人文社会学研究科(後期)	3	—	0	9	2
		看護学研究科(前期)	6	—	10	12	20
		看護学研究科(後期)	3	—	1	9	13
		大 学 院 合 計	22	—	11	50	37
四天王寺大学 短期大学部		保育科	40	—	50	80	95
		ライフデザイン学科	40	—	53	80	125
		短期大学部 合 計	80		103	160	220
四天王寺高等学校			700	—	411	2,100	1,324
四天王寺中学校			270	—	325	810	968
四天王寺東高等学校			210	—	186	630	550
四天王寺東中学校			140	—	57	420	155
四天王寺小学校			90	—	45	540	285
合 計			2,452	10	2,212	8,390	7,264

(6) 収容定員充足率

学校名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
四天王寺大学 文学部	—	—	—	64.7%	78.7%
社会学部	—	—	—	88.2%	94.6%
人文社会学部	104.3%	101.1%	92.9%	—	—
教育学部	102.2%	107.1%	105.3%	110.5%	111.3%
経営学部	107.4%	105.2%	118.0%	108.9%	119.8%
看護学部	103.8%	105.3%	113.1%	114.3%	116.2%
四天王寺大学大学院	81.6%	81.6%	66.0%	68.0%	74.0%
四天王寺大学短期大学部	86.0%	75.9%	68.2%	60.2%	137.5%
四天王寺高等学校	58.3%	63.2%	66.2%	66.7%	63.0%
四天王寺中学校	124.9%	118.9%	114.9%	114.7%	119.5%
四天王寺東高等学校	92.4%	114.6%	109.0%	97.3%	87.3%
四天王寺東中学校	38.6%	37.6%	35.0%	34.3%	36.9%
四天王寺小学校	47.0%	49.3%	51.1%	52.8%	52.7%

(7) 役員の概要

①理事

(定員) 5 名以上 (現員) 6 名

	氏名	就任 年月日	常勤・非常 勤の別	業務執行・非 業務執行の別	主な職業
1	塚原 昭人	R7. 6. 6	非常勤	業務執行	(宗) 四天王寺代表役員執事長
2	坂本 峰徳	R7. 6. 6	常勤	業務執行	(宗) 四天王寺責任役員 執事
3	森田 惇朗	R7. 6. 6	常勤	業務執行	(宗) 四天王寺責任役員 執事
4	須原 祥二	R7. 6. 6	常勤	業務執行	四天王寺大学・大学院・短期大学部 学長
5	近藤 泰章	R7. 6. 6	非常勤	非業務執行	(株) 日経サービス 代表取締役会長
6	速見 由昭	R7. 6. 6	非常勤	非業務執行	うめだ速見法律事務所 弁護士

②監事

(定員) 2 名以上 (現員) 2 名

	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤の別	職 業
1	羽賀 順一	R7. 6. 6	常勤	(税) 羽賀・たちばな 代表社員所長
2	石井 哲子	R7. 6. 6	非常勤	無職

③責任の免除・限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

・責任の免除・責任限定契約

私立学校法に従い、寄附行為第 59 条において、役員職務遂行の適正性が損なわれないようにするための措置として、善意でかつ重大な過失がない場合において責任を免除する旨を定めている。また、寄附行為 60 条において、責任限定契約を定め、非業務執行理事および監事との契約を締結しており、損害賠償責任の最低額は 40 万円以上と設定しており、私立学校法第 92 条の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨を定めている。

・役員賠償責任保険契約

本法人は、全ての役員を被保険者とする役員等賠償責任保険に加入しており、被保険者が私立学校法第 97 条の 2 第 1 項の損害賠償責任に起因して損害賠償請求がなされたことにより生じる損害を補償している。

(8) 評議員の概要

(定員) 理事数 (6) を超える数 (現員) 7 名

	氏名	就任年月日	主な職業
1	吉田 明良	R7. 6. 6	(宗) 四天王寺責任役員 執事
2	廣瀬 善重	R7. 6. 6	(宗) 四天王寺責任役員 執事
3	新井 順證	R7. 6. 6	(宗) 四天王寺責任役員 執事
4	中川 章治	R7. 6. 6	四天王寺高等学校・中学校 校長
5	今西 真喜	R7. 6. 6	無職
6	山岡 武	R7. 6. 6	(宗) 四天王寺責任役員 執事
7	澤田 圓成	R7. 6. 6	天鷲寺 住職

(9) 教職員の概要

①教職員の本務・兼務別の人数

令和 7 年 5 月 1 日現在

学校名	教員		事務職員		合計
	専任	非常勤	専任	兼務	
四天王寺大学 (大学院含む)	149	260	87	19	565
四天王寺大学短期大学部	15	35			
四天王寺高等学校・中学校	110	60	34	0	204
四天王寺東高等学校・中学校	54	16	8	0	78
四天王寺小学校	31	11	6	0	48
法人本部	0	0	3	0	3
合計	359	382	138	19	898

②教職員の平均年齢等

令和 7 年 5 月 1 日現在

学校名		平均年齢	平均勤続年数
四天王寺大学・短期大学部	教 員	51 才 7 ヶ月	8 年 11 ヶ月
	事務職員	45 才 10 ヶ月	15 年 8 ヶ月
四天王寺高等学校・中学校	教 員	47 才 11 ヶ月	13 年 0 ヶ月
	事務職員	45 才 6 ヶ月	13 年 1 ヶ月
四天王寺東高等学校・中学校	教 員	46 才 7 ヶ月	13 年 2 ヶ月
	事務職員	42 才 9 ヶ月	15 年 6 ヶ月
四天王寺小学校	教 員	44 才 6 ヶ月	8 年 2 ヶ月
	事務職員	54 才 0 ヶ月	30 年 8 ヶ月

(10) 納付金一覧表

単位：円

学校名		入学金	授業料	施設拡充費	運営維持費	教育充実費
四天王寺大学	文学部 社会学部 経営学部	200,000	837,000	180,000	180,000	—
	教育学部	200,000	857,000	180,000	180,000	—
	看護学部 (2年次以降)	200,000	1,200,000	160,000	200,000 (300,000)	—
四天王寺大学	人文社会学研究科	200,000	530,000	110,000	110,000	—
大学院	看護学研究科	200,000	380,000	110,000	110,000	—
四天王寺大学短期大学部		200,000	837,000	180,000	180,000	—
四天王寺高等学校・中学校		200,000	565,200	—	—	—
四天王寺東高等学校・中学校		200,000	540,000	—	—	60,000
四天王寺小学校		250,000	636,000	—	—	120,000

2. 事業の概要

四天王寺大学・大学院・短期大学部

1. 中長期計画の推進

「四天王寺学園 中長期計画」のうち、大学・大学院・短期大学部に係る計画については、18歳人口が減少する中、グローバル化の急速な進展や、Society5.0が目指す社会の到来など、刻々と変化する社会情勢に対応していくために、令和3年度からの後半5年間の計画を改訂した。

令和7年度の主な取り組み内容は次のとおりである。

I. 広報・学生募集に関する活動

(1) オープンキャンパススタッフ制度の創設と学生スタッフの育成強化

新たに「オープンキャンパススタッフ」制度を創設した。意欲の高い学生を選抜するため、面接等による選考を実施するとともに、年間6回にわたり外部講師による研修等を行った。その結果、オープンキャンパス当日における学生スタッフの対応は、昨年度までと比較して大きく改善した。学生スタッフによる対応力の向上は、来場者満足度の向上にもつながっており、その成果は各回の高校生・保護者アンケート結果からも明らかである。また、高校生に対しては憧れとなる先輩像を、保護者に対しては学生を丁寧に育成する大学であることを間接的に訴求する効果もあった。今後も継続して学生スタッフの育成強化に取り組んでいきたい。

(2) 遠方地域に向けたオープンキャンパス施策の実施

8月2日のオープンキャンパスにおいて、岡山県、香川県、徳島県及び高知県の4ルートで無料送迎バスを運行し、高校生・保護者計66名の来場につなげることができた。また、8月9日には、従来の沖縄(那覇)に加え、愛媛(松山)においても地方オープンキャンパスを開催し、2会場で高校生・保護者計23名の来場があった。無料送迎バスの

運行や出張型オープンキャンパスの実施により、従来接触機会の少なかった遠方地域の高校生等への訴求につながったものと考えられる。今後も継続的に遠方からの志願者確保に努めていきたい。

(3) 2026 年度入試に向けた入試制度の見直し

2026 年度入試における受験生獲得を目的として、以下の入試制度の見直しを実施した。

①総合型選抜プレゼン型への海外留学奨学金制度の導入

総合型選抜プレゼン型において、2 年次以降の海外留学奨学金を支給する制度を導入し、留学に関心を持つ志願者の獲得を目的として、国際コミュニケーション学科が参画した。しかしながら、当該方式による志願者は3 名にとどまり、制度の訴求方法やニーズの把握に課題が残る結果となった。

②総合型選抜オープンキャンパス参加型ガイダンスの拡充

総合型選抜オープンキャンパス参加型のエントリー要件として実施しているガイダンスについて、従来は7 月及び8 月のみの開催としていたが、今年度より新たに6 月開催を追加し、実施日数を拡充した。その結果、ガイダンス参加者数は1,378 名(昨年度1,306 名)となり、昨年度を上回る結果となった。

また、総合型選抜オープンキャンパス参加型の最終出願者数については、社会学科67 名(昨年度59 名)、学校教育コース55 名(昨年度43 名)、幼児教育保育コース29 名(昨年度19 名)、公共経営専攻19 名(昨年度11 名)、看護学科31 名(昨年度24 名)と増加した。一方で、日本学科27 名(昨年度40 名)、国際コミュニケーション学科24 名(昨年度30 名)、企業経営専攻56 名(昨年度80 名)と減少した学科・専攻(コース)もあり、学科・専攻(コース)間で差がみられる結果となった。

(4) 高大連携事業の推進

令和7 年7 月に、四天王寺東高等学校の生徒を対象とした交流 DAY を開催し、高校生201 名が参加した。実施後のアンケート結果も好評であり、本学に対する理解促進につながった。昨年度に引き続き、1 年生全員を対象とすることで、本学に対する早期の認知向上を図った。また、同月には本学教員を同高等学校へ派遣し、模擬授業を実施した。

さらに、「高大連携アイデア集」(高等学校へ大学教員を派遣した際に実施可能な講義内容等をまとめた冊子)を作成し、連携校へ送付することで高大連携事業の推進を図り3 校に向けて新規プログラムを実施した。

II. 教育改革に関する活動

(1) 令和6 年度卒業生対象「本学の強み把握調査」の実施

本学が今後も高校生から選ばれる大学であり続けるため、将来に向けた戦略策定の基礎資料とすることを目的として、令和6 年度卒業生(一部既卒生を含む)を対象に「本学の強み把握調査」を実施した。

調査では、主として選択式質問によりデータを収集・数値化し、統計的分析を行う定量アンケートを実施したほか、経営学部及び教育学部の卒業生約10 名を対象に、1 対1 の面談形式によるデプスインタビューを実施し、既存組織における強み及び課題の分

析を行った。なお、定量アンケートについては令和6年度卒業生全員を対象として実施した。

調査結果については、執行部及び各学部において共有し、学部改編等を検討する際の基礎資料として活用した。

(2) 100分授業・14回授業の導入

文部科学省による大学設置基準第23条の改正を受け、本学では今年度より、1回あたりの授業時間を「90分」から「100分」に、授業回数を「15回」から「14回」に変更した。

本制度の導入により、授業回数を減らすことで学年暦に一定の余裕を持たせ、学生の課外学習及び課外活動、教員の研究活動の促進を図るとともに、1回あたりの授業時間を延長することで、学生の学修内容に対する「ふりかえり」の充実を目指している。

導入初年度となった今年度は、教員・学生ともに大きな混乱やトラブルもなく授業を実施できた。今後は、冬学期終了後に学生アンケートを実施し、100分授業における「ふりかえり」の実施状況や、授業時間変更による学生の成長実感等について検証を行い、次年度以降の改善につなげていく予定である。

(3) 教養教育科目の再編

令和7年度より、「基礎教育科目」と「共通教育科目」を統合し、新たに「教養教育科目」として再編を行った。社会動向や学生ニーズの変化を踏まえ、教育内容の充実及び全学的な統一を目的として、以下のとおり改編を実施した。

・人権教育の拡充

「現代社会と人権」をⅠ・Ⅱに分割し、学生の興味・関心に応じた履修選択の幅を拡大した。

・情報系科目の新設

ITスキルの習得を目的として、「情報デザイン」及び「Webデザイン演習」等の情報系科目を新設した。

・全学的な科目編成の統一

これまで学部ごとに異なっていた科目編成について、看護学部及び短期大学部を含めた全学的な統一を図った。

・語学科目の再編

英語については、習熟度別クラス編成を徹底し、基礎学力の向上を図った。また、第2外国語については、語学と文化を融合した講義科目を新設し、学生の負担軽減と学習意欲の向上を目指した。

(4) 新入生向け情報発信コンテンツの閲覧状況分析

令和7年度新入生による情報発信コンテンツの閲覧状況について、全体的な利用状況の検証を行った。

記事の閲覧数は15,610回（昨年度10,799回）となり、昨年度比で約45%増加した。一方、動画閲覧数は3,150回（昨年度4,006回）となり、約21%減少した。

記事閲覧数が増加した要因としては、最新記事の掲載に加え、プレエントランス実施案内や学生寮・下宿案内等のお知らせ記事に対する関心が高く、入学生による閲覧が増加したことが考えられる。

また、動画閲覧数が減少した要因については、クラブ・サークル紹介動画を公式 Instagram へ移行したことにより、本サイト内での計測対象外となったことが主な要因であると考えられる。

Ⅲ. 学生支援に関する活動

(1) 高等教育の修学支援新制度への対応

令和7年度においても、大学及び短期大学部ともに「高等教育の修学支援新制度」の機関要件を満たし、継続して対象校として認定を受けた。

今年度からは、多子世帯（扶養する子どもが3人以上）の学生を対象として、入学金及び授業料を国が定める一定額まで減額する制度が開始され、中間層への支援が拡充された。これに伴い、本学においても授業料等減免制度の対象学生が増加した。

(2) 学生支援の充実と学生生活環境の向上

令和7年度は、学生同士の交流促進、生活支援、学内環境の整備及び保護者との連携強化を目的として、各種学生支援施策を実施した。学生生活の質向上と安心して学べる環境づくりに取り組んだ結果、学生及び保護者双方から高い評価を得ることができた。

・新入生への交流支援と孤立防止

入学前プレエントランスガイダンスに不参加であった新入生を対象に、学生運営委員会・ピアサポーター「PIATA」が企画・運営主体となり、「たこ焼きパーティ」を開催した。新入生同士及び先輩学生との交流機会を創出することで、孤立防止や大学生生活への円滑な適応につなげることができ、参加者からも高い満足度が示された。

・産学連携による生活スキル向上支援

学生寮生を対象として、キング醸造株式会社の協力・協賛のもと料理教室を実施した。自炊の重要性や食生活への意識向上を体験的に学ぶ機会となり、参加学生からも好評を得た。

・水無月祭の質的向上

前年度アンケート結果を踏まえ、来場者目線を意識した運営改善を行った。屋台や企画内容の充実に加え、企業への協力依頼等を進めた結果、在学生及び一般来場者ともに昨年度を上回る来場につながった。

・学生の利便性向上

学内にモバイルバッテリーシェアリングサービスを導入し、情報端末利用需要への対応を図った。利用者も多く、学生生活の利便性及び満足度向上に寄与している。

・保護者との連携強化による信頼関係の構築

保護者懇談会において、教員と各課職員が連携し、学修状況や学生生活について丁寧な説明を行った。これにより、保護者の大学に対する理解促進及び信頼関係の構築につながり、安心感や満足度向上に寄与した。

- ・一人暮らし学生への食の支援

日本学生支援機構が公募した「物価高に対する食の支援事業」に申請し、採択を受けたことから、一人暮らしをしている学生を対象に、幸南食糧株式会社の協力を得て食料品配付を実施し、生活支援を行った。

(3) 「キャリア支援体制の充実

令和7年度は、学生一人ひとりに寄り添った就職支援及びキャリア形成支援の充実を図るため、相談体制の強化や情報発信手段の改善、就職活動環境の整備等を実施した。

就職相談については、個々の学生に丁寧に対応するため、対面及びWEBによる予約制で実施している。一方で、飛び込みで来訪する学生に対しても職員が柔軟に対応し、就職活動に対する不安解消や実践的支援を継続して行っている。

また、LINEを導入したことにより、ガイダンスや各種講座等のイベント情報をプッシュ通知により学生へ直接配信できるようになった。加えて、面談予約についても24時間受付可能となり、学生の利便性向上につながった。さらに、「キャリアサポートブック」を卒業年度別にLINE上で閲覧できるよう整備したことで、必要な情報へ容易にアクセスできる環境を構築した。

その他、インターンシップ、リモート面接及び企業説明会等で利用可能な部屋を4室整備し、照明や有線LAN等の設備を完備することで、学生が安心して快適に利用できる環境を整えた。

筆記試験対策については、本学学生の課題であるSPI対策強化のため、昨年度に引き続きSPI対策相談員を配置した。また、公務員試験対策にも対応できる体制整備を進め、学生支援の強化を図った。さらに、公務員講座については、現行の試験傾向や他大学の事例等を踏まえ、資格・サポートコーナー業務を委託している株式会社東京リーガルマインドと見直しを進めている。

IV. 研究・地域貢献に関する活動

(1) 生涯学習・地域連携事業

生涯学習の機会提供としてオープンカレッジを開講し、地域住民の学びの場を提供するとともに、自治体や地域との交流を通じて地域活性化及び持続可能な地域社会の実現に取り組んだ。

また、地域連携・研究推進センターを中心として、自治体、地域団体、民間事業者等と連携し、学生参画型の地域活性化事業を推進した。第6回地域連携学生企画プロジェクトでは、学生が提案した藤井寺市内周遊ツアープランが、同市のLINEデジタルスタンプラリー「MEGURY」に実装された。また、JA大阪市と連携し、市内産イタリア野菜を活用したレシピ開発に取り組み、その成果発表会を令和8年1月14日に実施した。

さらに、藤井寺市内の障がい者就労支援施設が製造するレトルトカレーについて、短期大学部保育科の学生らが新たなパッケージデザインを作成し、施設利用者と協働して商品のラッピング作業に取り組んだ。

- ・オープンカレッジ

前期19講座、後期21講座を開講した。

- ・たいし塾

前期は全5回実施し、延べ162人が受講した。後期についても全5回実施し、2月に終了した。また、4月及び9月には、あべのハルカスサテライトキャンパスにおいて特別企画を開催し、延べ77人が受講した。

- ・第29回公開シンポジウム

羽曳野市及び羽曳野市教育委員会との共催により、第29回公開シンポジウムを令和8年3月8日に開催した。

テーマ：「聖徳太子とマンガ幻想譚―能・狂言『日出処の天子（ひいづるところのてんし）』の世界」

内 容：第一部では、社会学科長 藤谷厚生教授による講演を実施した。第二部では、能楽師 大槻裕一氏、ブリュッセル自由大学日本学科准教授 ビューニュ・マガリ氏を招き、日本学科 植朗子准教授を交えた鼎談形式により、能・狂言として舞台化された「日出処の天子」をテーマに講演及び意見交換を行った。

- ・看護職の実践能力・研究能力開発プログラム

認知症ケア、看護研究の基本、病院防災、臨地実習指導者養成、自立支援のための介助方法の5テーマを中心に開講し、36人が受講した。

- ・まちまる学園祭

近隣4市の自治体、民間事業者及び地域住民と連携したイベント「まちまる学園祭」を令和7年9月28日に東キャンパスにて開催した。当日は、南大阪地域の産学官民が一体となった交流の場となり、約1,500人が来場した。地域連携・研究推進センターでは、来場者アンケートを実施し、約1,000件の回答を得るなど、地域住民の参加状況や居住地属性の把握に努めた。

- ・ボランティア DAY

東キャンパスを会場として、日本ライトハウス盲導犬訓練所及び地域ボランティアとの交流を目的とした「ボランティア DAY」を令和8年3月1日に開催予定である。本事業を通じ、同訓練所と短期大学部ライフデザイン学科が連携し、盲導犬の普及啓発及び視覚障がい者への理解促進を目的とした取組を実施する予定である。

（2）大学間連携

教員志望者の減少に対応するため、大阪府内の教員養成課程を有する12大学及び4教育委員会が連携して実施する「教員の魅力アッププロジェクト」第3回「大阪の先生になろう！」を令和7年7月18日に開催した。当日は、生徒、保護者及び学校関係者84人が参加し、教職の魅力発信及び教員志望者の確保に取り組んだ。

生涯学習事業においては、ハルカス大学の協力のもと、大阪大谷大学及び阪南大学との大学間連携による公開講座を実施した。前期3講座、後期4講座を企画し、令和8年1月14日現在で計115人が参加した。

また、大阪大谷大学との連携事業として、令和7年9月16日に、日本学科及び社会学科において学芸員課程を履修する学生を対象に、大阪大谷大学博物館の見学を実施した。

見学を通じて、文化財の重要性や歴史理解の深化、文化財資料の取扱方法等について学修を深めた。

さらに、令和7年9月17日には、本学看護学部学生との多職種連携ワークショップを開催したほか、9月26日には、事務局職員を対象として「研究活動における不正行為防止に関する取組」をテーマとした共同SD研修を実施し、大学間連携及び職員研修の充実を図った。

(3) 地域経済研究所「エリアデザイン・ラボ」の創設

経営学部とランドブレイン株式会社との共同運営により、地域経済研究所「エリアデザイン・ラボ」を藤井寺駅前商店街に開設した。本研究所は、地域社会及び地域経済の実態把握と課題分析を行い、その成果を基に地域の活性化及び持続可能なまちづくりに資する実践的な提案を行うことを目的とするとともに、大学と地域、企業及び自治体等との連携拠点として機能させ、学生に対して実社会と接続した学修機会を提供し、実践的能力の育成を図ることを目的としている。

令和7年12月20日に開催したオープニングセレモニーでは、自治体関係者、民間事業者及び地域住民等に対し本施設を披露し、約100名が来場した。

今後は学部横断的に活用し、学生に対して実践的な学修機会を提供するとともに、地域課題の解決及び地域活性化への貢献に資する取組を推進する。

V. 大学運営に関する活動

(1) 施設の計画的な整備及び補修の推進

・4号館4階中央トイレ改修工事

本学で最も講義室数が多い校舎であり、入学試験会場やオープンキャンパス等の各種行事・イベントにおいても使用頻度が高い施設である。平成28年度より計画的に衛生設備の改修を進めており、今年度は4階中央トイレの改修工事を実施した。工事は令和7年9月4日に完了した。

・大講堂防水工事

平成12年竣工の大講堂屋根はガルバリウム鋼板による瓦敷施工となっているが、経年劣化により鋼板の反り返りや雨樋部の変形が確認され、水はけの悪化が生じていた。令和7年3月11日に雨漏りを確認したことから防水対策を検討し、施工業者等と協議のうえ、ウレタン通気工法を採用した。これにより工期短縮及びコスト抑制を図り、工事は令和7年11月12日に完了した。

(2) 省エネルギー対策の推進

・事務局棟東側入口ダウンライト交換工事

平成11年の竣工時より設置されていたハロゲンランプ式ダウンライト6灯をLED照明器具へ更新した。一部は点灯不能となっており、照度不足により安全性の課題が生じていたため、あわせてスポットライト4灯を追加設置した。これにより、事務局棟1階東側入口付近の照度が改善され、安全で明るい環境が整備された。

・グラウンド照明 LED 化工事

平成 15 年に設置されたグラウンド照明（メタルハライドランプ 72 灯）を LED 投光器へ更新した。年間 800 時間の運用（4 時間/日×200 日）で比較した場合、既存設備では 86,400kWh の消費電力量に対し、新設備では 37,786kWh となり、約 56% の削減効果が見込まれる（メーカー試算）。工事は令和 7 年 11 月 11 日に完了した。

（3）FD・SD 研修の実施及び制度整備

令和 7 年 9 月 4 日、教員及び事務職員が連携し今後取り組むべき課題として、「生成 AI で変わる大学業務と教育実践～教員・事務職員のための FD・SD 研修～」をテーマにオンライン形式で FD・SD 研修を実施した。対象は専任教職員及び特任教員、有期・無期雇用事務職員を含む計 268 名であり、事後視聴者を含め参加率は 100% であった。

本研修では、ChatGPT 等の生成 AI の基本的な仕組み及び操作方法について理解を深めるとともに、大学教育及び事務業務における実践的な活用方法を学修した。これにより、業務の効率化及び質の向上に資する AI ツール活用力の向上が図られ、教職協働による新たな業務・教育実践の在り方を検討する契機となった。

また、FD・SD 活動の一層の体系化を図るため、実施方針及び実施計画の策定に向け、協議を進めている。

四天王寺高等学校・中学校

1. 教育

1) 仏教教育等をさらに充実させ、人間性、社会性を涵養する。

①仏教科の年間指導計画・シラバスについては仏教教育部が中心となり編纂し、それらに基づき授業や特別活動を実施

【講話の内容】…仏教講話は全ての学年が年 2 回実施。

高校 1 年は、7 月 15 日に光譽祐華先生、10 月 21 日に梁瀬奈々先生を講師として実施。

高校 2 年は江田智照先生を講師として、7 月 16 日、9 月 17 日に実施。

高校 3 年は内藤陽介先生を講師として、7 月 17 日、9 月 28 日に実施。

中学 1 年は中川校長を講師として、6 月 23 日、9 月 29 日に実施。

中学 2 年は山本仏教教育部部長を講師として、6 月 23 日、9 月 29 日に実施。

中学 3 年は瀧藤仏教教育部副部長を講師として、6 月 20 日、9 月 19 日に実施。

仏教講話等の講堂特活については、生徒学校評価項目で「多様な知識や人格の形成に役立つものが多いと感じる」を 4.2 以上継続するよう指導

②4 月 10 日に中学 1 年はオリエンテーション実施日の午後に四天王寺参拝を実施。4 月 25 日に高校 1 年は春季校外学習において叡福寺参拝を実施。

③生徒による学校評価の礼拝・挨拶（マナー）・環境美化の各項目において、それぞれ 4.5 以上を保つために、挨拶については、校長、教頭、仏教教育部長、生徒指導係が校門や校内各所で登校時の挨拶指導を実施。

④令和 7 年度の努力目標「四箇院の教えを実践しよう」の実現に向け、週訓や人権尊重標語作成への生徒の能動的な参加を促す懸賞制の取り組みを継続。

- ⑤1 学期のいじめアンケートにおいて、中学 1 年は 3 件、中学 2 年は 3 件、中学 3 年は 0 件、高校 1 年は 1 件、高校 2 年は 0 件、高校 3 年は 1 件、いじめ被害を受けている疑いがあるとの記載があったものには、該当学年団及び人権教育部が速やかに対応した。とりわけ中学生は各学年当初の人間関係構築時の行き違いが原因である場合が多く、各学年で指導し人間関係の改善に努めた。
- ⑥教職員間のハラスメントについては、7 月 7 日～19 日にアンケートを実施。回答数が大幅に増加した中で、事案を見聞きした回答が 27%あり、ハラスメント部会の担当者・原田課長より速やかに教職員会で報告。中川校長より、生徒・教職員を問わず、同様の事案に対して再度注意喚起を行った。冬季には教職員対象の研修を実施。
- ⑦中学 2 年の仏教教育の取り組みである人権教育・平和学習として、夏季合宿では長崎での平和学習に取り組み、12 月 15 日の HR 時に、被爆体験伝承者の原田小鈴先生を本校に招き、被爆体験交流証言講話を実施し、平和の大切さを実感させた。
- 2) シラバス、カリキュラムの精査
- ①6 ヶ年の生徒については、コースごとに中学・高校の各教科の連携を考慮し、カリキュラムを立案し実施。
- 3 ヶ年の生徒については、講座等を含め限られた期間を有効に使う工夫を加え、カリキュラムを立案し実施。
- ②文化・スポーツコースについては、令和 8 年度からの週 5 日制実施を目指し、高校は週 30 単位、中学は週 31 時間の教育課程を編成後に変更のある教科に内示し、年次進行での実施に備えた。
- ③令和 7 年 5 月末を締切として各教科のシラバス作成を指示し、教務部で集約後に各シラバスを管理職が内容確認した後、簡易版シラバスとして再編集した。それらを全教員が情報共有可能とし、各担任が面談時等において保護者・生徒に対して開示できる環境を整備した。
- ④5 教科については、令和 2 年度以降に実施している学期末毎の進度表による評価を継続。その結果、一学期末は各教科・科目とも、授業進度について計画通りの実施を確認した。
- 3) 学習指導要領、大学入試改革への対応
- ①教務部により、本校の実状にあわせた観点別評価を中学・高校の全学年で実施し、指導要録に記載。
- ②進路指導部および進路アドバイザーが主導して、高校 3 年の学年団教員並びに 5 教科教員に対して、「大学入学共通テスト」および各大学の「個別学力検査」について、模試毎に結果分析・情報収集・検証を行い、該当教員間で情報を共有し、受験に備えた。
- ③進路指導部より高校 3 年の学年団教員を中心に適宜情報提供を行い、私立大学を中心とした「指定校推薦」、および国公立大学を中心とした「学校推薦型選抜」「総合型選抜」「一般選抜」等について、教員間で情報を共有した。
- 4) 先進的な教育、高大連携に関する取り組み
- ①7 月 8 日に文理・文理選抜コースの高校 1 年、文理・文理選抜コース高校 2 年と 6 ヶ年 1 年の希望者を対象に、大阪大学、神戸大学、大阪公立大学、奈良女子大学への大学訪問を実

施。

- ②7月28日に高校2年希望者20名を対象に「大阪大学医学部オリジナルツアー」を実施。
- ③8月19日に高校1年、高校2年希望者188名を対象に「京都大学キャンパス体験ツアー（法・経・文・理・工・農・薬の各学部）」を実施。
- ④8月21日に高校1年、高校2年希望者50名を対象に「京都大学キャンパス体験ツアー（医・総人の各学部）」を実施。
- ⑤12月8日に高校1年、高校2年文理・文理選抜コースの希望者を対象に、大阪大学35名、同志社大学36名、関西学院大学34名で訪問を実施。
- ⑥12月20日に高校2年医志コースおよび他コースの希望者28名を対象に、京都府立医科大学の体験学習を実施。
- ⑦3月19日・20日に中学3年と高校2年の希望者を対象に、日本再生医療学会による日本再生医療学中高セッションを実施。

2. 学校生活の充実

1) 英語教育の充実

- ①中学全学年、高校1年と高校2年の文系においてネイティブ講師を4名配置し、ティームティーチングで英会話を実施し、生徒のリスニングとスピーキング力の向上を図った。また、学習プラザにおいてネイティブ講師の常駐による英会話および英文添削を実施し、常に英語に触れることのできる環境を継続した。
- ②AIによる英語4技能対策ツールとして、中学の医志、英数Sは「ELSA」を、英数コースでは「ELST」をそれぞれ利用し、リスニング・スピーキング力向上や英検対策等に備えた。
- ③2月2日に和光館で中学1年、中学2年において総合的な学習の英会話と連携し、英語暗唱大会及び英語パフォーマンス大会を実施。
- ④7月23日～8月7日に5名が初参加となるイギリス・イートンカレッジ・サマースクールでの海外語学研修を実施。
- ⑤7月28日～8月10日に76名参加の7回目となるオーストラリア・ブリスベンにおけるホームステイでの海外語学研修を実施。
- ⑥7月29日～8月2日、中学1年～高校1年の希望者167名を対象に、ベルリッツによる夏季校内語学研修を実施。
- ⑦8月4日～17日に38名参加の3回目となるイギリス・チェルトナムレディースカレッジ・サマースクールでの海外語学研修を実施。
- ⑧令和7年度は開催を見送ったハーバード大学生を招いて実施の「SLICE」については、8月2日～4日に25名の生徒が参加して実施。
- ⑨6月10日および10月24日に、生徒の自主活動としてESS部が韓国のサンジ女子高校とオンライン交流を実施。
- ⑩10月17日にはシンガポールのシダーズセカンダリーガールズハイスクールともオンライン交流を実施。
- ⑪令和8年3月23日～27日に中学1年から高校1年の希望者51名を対象にベルリッツによ

る春季校内語学研修を実施

2) 学校行事の充実

①6月18日に大阪城ホールで、塔影祭・体育祭を実施。

②9月13日・14日の両日に文化祭を実施。

③中学3年、高校2年（コース別）の修学旅行は以下の通り実施。

- ・中学全コース：10月18日～21日（3泊4日）、台湾を訪問。
- ・高校英数Sコース：3月26日～30日（4泊5日）、ベトナムを訪問。
- ・高校医志コース：3月26日～31日（5泊6日）、北海道（英語研修含む）を訪問。
- ・高校英数コース：10月7日～11日（4泊5日）、シンガポールを訪問。
- ・高校文理・文理選抜コース：10月7日～11日（4泊5日）、北海道を訪問。
- ・高校文化・スポーツコース：2月2日～4日（2泊3日）、関東方面を訪問。

③7月23日～25日の2泊3日で、中学1年は飛騨・高山方面、中学2年は博多・長崎方面の夏季合宿を実施。各訪問地の自然・文化・歴史に触れ、中学1年は学校では行えない体験型学習やチームビルディング等の仲間づくりを、中学2年は現地の歴史や文化に触れ、12月に行う被爆体験講話につながる平和学習を行った。

④7月23日～25日に高校1年希望者48名を対象に、高校林間学舎（長野方面）を実施。

3) 学習支援体制の構築

①中学では通常の放課後や考査後に、学習の定着に課題がある生徒への対策指導や課題配布およびICTを利用した指導や支援を実施し、フォローを図っている。高校においては、教科欠点の確定後、教科担当者より補充課題の指示や個別指導を実施。中学・高校ともに「賢者（新教務システム）」で提供される度数分布等を利用して検証し、各教科の遅進者指導の一助とした。

②6年前より学校として契約・導入している「駿台サテネット21」のログイン数は、中学で307名、高校で359名の合計666名が利用した。有用な映像教材につき、入学時に利用ガイダンスを行い利用頻度を高める働きかけを行った。

③週1回特別支援委員会を開催し、それを踏まえて月1回は管理職も交えた報告会を実施し、組織的に不登校や様々な問題を抱えた生徒への対応を行った。加えて、図書館司書の協力により、不登校生徒や教室に入室が難しい生徒への支援対応をし、同傾向を持つ生徒の登校機会の拡大につなげた。また本年度も全クラスに定点映像配信用のタブレットPCを配布し、登校できない生徒に対してTeamsを利用した授業映像を配信した。

4) クラブ活動の充実

①高校の強化クラブ等について、夏の全国大会では以下の通りの成績を収めた。

- ・卓球部は学校対抗およびダブルスで準優勝、シングルスはベスト4～ベスト16
- ・バドミントン部は学校対抗ベスト8、ダブルスはベスト8～ベスト16、シングルスはベスト32
- ・ハンドボール部はベスト8
- ・ソフトテニス部は3回戦～2回戦出場

②世界大会

- ・アーティスティックスイミングでは第 22 回世界水泳選手権（シンガポール 2025）においてチームフリーで銀メダル、ソロテクニカルで 6 位を獲得
- ・卓球部は第 29 回アジアユース卓球選手権大会 U19 女子シングルス・ダブルスともに優勝
- ③中学においても全国中学校体育大会で、卓球部が学校対抗団体準優勝、シングルス優勝をはじめバドミントン部が学校対抗団体準優勝、ダブルス準優勝
- ④文化部の主な全国大会の実績
 - ・放送部は第 72 回 NHK 杯全国放送コンテストにおいて、ラジオドキュメント部門準々決勝進出
 - ・競技かるた部は第 48 回全国高等学校選手権大会（団体の部）でベスト 16、第 49 回全国高等学校総合文化祭で大阪代表としてベスト 16
 - ・自然科学部生物班：日本生物学オリンピック 2025 で銀賞（世界大会代表候補者）
 - ・中学コーラス部は第 92 回 NHK 全国学校音楽コンクール近畿ブロック金賞、全国コンクール優良賞、第 78 回全日本合唱コンクール全国大会中学生部門出場銀賞、第 19 回声楽アンサンブルコンテスト全国大会中学生部門に出場

5) 参観、面談の充実

- ①5 月 14 日の後援会総会後の参観授業については、中学 766 名、高校 631 名、計 1,397 名の保護者が来校。
- ②11 月 11 日、13 日、14 日を参観週間として保護者に自由に参観する期間と設定し、学校での生徒の普段の様子を確認いただく機会とした。
- ③一学期末(7 月 10 日～20 日)、二学期末(12 月 13 日～22 日)の保護者面談について、1 日ずつ日曜日にも面談日として設定し、対面およびオンラインを併用して実施。

3. 進路指導

1) 希望に応じた進学実績を出す。

- ①年度目標であった国公立医学部 50 名には届かず、昨年より微増ではあるが、医学部受験層は例年以上に難関国公立の合格者を出した。
 - ・国公立医学部合格数 44 名
 - ・東大、京大、阪大、神大合格数 65 名
 - ・国公立合格数 226 名
- ②後期入試まで生徒が最後まで諦めずに受験に取り組めるよう、引き続き粘り強く指導した。

2) キャリア教育と大学訪問の充実

- ①6 月 17 日に高校 1 年文理・文理選抜コース、英数コース、英数 S コース対象に、帝塚山大学現代生活部長 移住空間デザイン学科 辻川ひとみ教授（卒業生）による「建築デザイン入門」講座を実施。
- ②7 月 4 日に中学 1 年～高校 3 年希望者 40 名を対象に、「物理教育講座 物理を楽しもう！」を名古屋大学大学院理学研究科 北口正暁准教授（保護者）により実施。
- ③7 月 7 日に 4 年目となった高校生対象「大学フェス：国公立 16 大学全体講演＋個別相談会」として、和光館・各教室に京都大学、大阪大学、早稲田大学、関関同立大学をはじめ、合計 16 大学の入試担当者を招き、大学別説明会と個別相談会（生徒・保護者 約 500 名来

場)を開催。

- ④7月8日に文理・文理選抜コース高校1年、文理・文理選抜コース高校2年と6ヶ年生希望者172名対象に、「大阪大学・神戸大学・奈良女子大学・大阪公立大学訪問見学ツアー」を実施。
 - ⑤7月12日に高校1年英数Sコース対象に、「保護者による職業紹介」を大阪大学工学部 松崎典弥教授(保護者)により実施。
 - ⑥7月28日に高校2年希望者20名を対象に、「大阪大学医学部医学科～四天王寺高校オリジナルツアー～」を実施。
 - ⑦8月19日・21日に高校1年・高校2年希望者219名を対象に、「京都大学キャンパスツアー」を実施。(19日は法学部、経済学部、文学部、理学部、薬学部、農学部、工学部、21日は医学部)
 - ⑧8月22日に文理・文理選抜コース高校1年・高校2年希望者対象に、3ヵ年卒業生(19名)を招いて卒業生座談会を実施。
 - ⑨11月5日に文化・スポーツコースを除く高校2年、高校1年英数Sコース対象に、奈良女子大学研究員 生活環境科学系 心身健康学専攻 臨床心理学コース 臨床心理士・公認心理師 馬場絢子助教授(卒業生)による「心理学・臨床心理学の内容、心理学科卒業後の進路・就職について」講座を実施。
 - ⑩12月8日に高校1年・高校2年の文理・文理選抜コース希望者対象に、大阪大学35名・同志社大学36名・関西学院大学34名でキャンパスツアーを実施。
 - ⑪12月20日に高校2年希望者28名対象に、「京都府立医科大学キャンパスツアー四天王寺オリジナル」を実施。
 - ⑫2月17日に中学2年(文化・スポーツコース除く)全生徒に、「医師と会社の兼業について」中澤晋作先生、「キャリア選択について」中澤己都美先生による講演を実施。
- 3) 生徒、保護者への進学説明会の充実
- ①4月下旬より学年別、コース別、クラス別の進学説明会を実施。第一会議室、和光館、録画配信(Zoom・すぐる)を併用しながら実施。
 - ②7月17日に高校3年 医学部受験希望者50名を対象に「医学部医学科志望者対象入試説明会～2025年度入試に向けて～(国公立大学医学部医学科入試データ説明会)」を進路指導部の辰巳進路アドバイザーが実施。
 - ③辰巳進路アドバイザーによる個別進路相談数は440回(高校3年303回+他学年137回:2月末現在/前年度同時期:415回)実施。
- 4) 外部の資源を利用し、生徒の目標設定に資する企画の検討をする。
- ①7月5日に高校2年希望者105名を対象に「『難関大(京大・阪大・神戸大、等)入試数学』対策～正解へつなげるアプローチ法～」を駿台予備校杉山義明先生により実施。
 - ②7月5日に高校3年希望者89名を対象に「共通テスト対策『現代文』講座～高得点を狙う勉強法～客観的読解法から論理的解答法～」を駿台予備校中野芳樹先生により実施。
 - ③9月2日ホームルーム時(1時間目)に中学3年英数Sコース、高校1年英数コース、英数Sコース、医志コースを対象に「人文科学系学部の研究とキャリア形成」を関西大学社会学

部杉本舞教授により実施。

- ④9月4日に高校3年を対象に「大学受験対策 志望理由書、自己推薦文の書き方講座」を駿河台予備校池尻俊也先生により実施。また教員も対象に実施した。
- ⑤10月14日に高校1年を対象に「朝日新聞社がん出張授業」を大阪国際がんセンター総長・大阪対がん協会会長松浦成昭先生により実施。
- ⑥10月17日に高校1年・高校2年の英数Sコースの希望者30名対象に「サイエンスダイアログ 湖沼で優占する細菌の難培養性の背景にある適応進化の解明」を京都大学化学研究所キム・スヒョン博士の講義を実施。
- ⑦10月31日に医志コース中学3年・高校1年・高校2年と希望者9名を対象に「大阪大学医学部医学科教授講演会」を大阪大学小玉美智子教授により実施。
- ⑧3月19日～20日に中学3年と高校2年の希望者対象に神戸で行われる「日本再生医療学会総会」の参加・発表を実施。

4. 職員研修

1) 教科指導力、生徒指導力、進路指導力の向上

- ①入職1年目の4教科5名の教員に対し、学校が指定した教員の授業を見学し、レポートを提出。
- ②7月5日に駿台予備校より杉山義明先生を招き、校内で実施した高校2年対象の「難関大（京大・阪大・神戸大等）入試数学対策」講座へ教員10名が参加。
- ③7月5日に駿台予備校より中野芳樹先生を招き、校内で実施した高校3年対象の「共通テスト対策『現代文』講座」へ教員6名が参加。
- ④7月23日・24日に駿河台予備校より藏貫大先生を招き、校内で実施した高校3年対象の「難関大入試数学対策」講座へ教員3名が参加。
- ⑤7月18日に株式会社プロキッズ原正幸氏と岡部友香氏を招き、校内で実施した高校3年対象の「大学入学共通テスト『情報Ⅰ』対策講座」へ教員2名が参加。
- ⑥夏季（26名）に教員対象駿台セミナーに国語（11名）・数学（8名）・社会（6名）・情報（1名）、冬季（16名）に国語（4名）・数学（10名）・英語（2名）が受講した。また、11月2日数学セミナー3名、3月20日啓林館高校数学セミナーに8名が受講し、多くの教員が新テストの傾向分析や授業技術に関する研修を行い、内容を教科内で共有した。
- ⑦9月4日に駿台予備校より池尻俊也先生を講師として招き、受講希望教員対象に「志望理由書・自己推薦文の書き方」講座を実施、28名が参加した。
- ⑧10月28日より相互参観授業を開始し、国語・数学・社会・理科・英語の5教科で、数学（1名）、理科（1名）家庭科（1名）の3名が実施した。

2) 大学入試改革、新指導要領等の研修

- ①令和8年度大学入試要項が徐々に発表されていることを受け、Web説明会に各自参加し、進路、該当教科、教務と情報を共有した。
- ②進路指導部、入試研究係、高校3年担任を中心に大学別説明会、全国模試分析会、医学部分析会等に参加し、大学入試情報交換、研修、分析に努めた。

3) 外部研修への参加

- ①4月5日に春季職員研修として、全教職員を対象に弁護士 渡邊徹先生による「保護者との関係性に関する研修」を実施。(欠席0名)
- ②7月22日に夏季教員研修として、全教員を対象に、関西医科大学小児科 柳本嘉時先生による「起立性調節障害(OD)と不登校―支援につながる疾患の理解―」の講演を実施。(欠席0人)
- ③8月22日に夏季職員研修として、全教職員を対象に東大寺執事長 上司永照氏による「雑華 厳浄～ひとりひとりが華であるという考え方～」の講演を実施。(欠席1名)
- ④12月1日に冬季教員研修として、全教員を対象に、駿台予備校大阪南校校舎責任者森政人氏による「志望校合格に向けて」を実施。

5. 広報

1) HP等を活用し、在校生、受験生、保護者、卒業生への情報発信の充実と強化

- ①7月28日にHPをリニューアル。トップページに動画を掲載し、デザインを他の広報物と統一した。また各コンテンツに階層を設定しグループ分けを行うことで、閲覧したい項目にスムーズにアクセスできるよう構築した。
- ②令和5年4月25日開始のInstagramは令和8年4月末現在、総投稿数610回、週2～3回ペースの投稿を継続している。写真による投稿だけでなく、ストーリーズやリール動画など動きのある投稿を強化したことにより、フォロワー数7,680人と昨年同時期5,534人より2,146人増加。情報発信力を測る指標となる閲覧数は、通常フォロワー数と同等の数値になるが、どの投稿も閲覧数がフォロワー数の3～4倍を記録しており、情報発信力は強化されているといえる。

2) 説明会、見学会の企画(時期・対象者等)充実

- ①中学校入試分析・説明会を4月5日に実施。(Zoom併用) 来校304組567名 Zoom664組(前年277組504名 Zoom602組)
- ②オープンスクールを6月7日に実施。816組1,850名が来校(前年:772組1,820名/44組・30名増)。アンケート回答者へのオリジナルグッズとして下敷きを作成し、当日配布資料や休憩室等にQRコードを掲載。校内放送でもアンケート回答をアナウンスした結果、816組中608件の回答があり、回答率は74.5%(前年:772組中511件、回答率66.2%)で、8.3%の向上となった。
- ③中学校説明会を7月12日、13日に実施。(Zoom併用) 来校487組1,023名 Zoom503組(前年482組1,023名 Zoom398組)
- ④高校学校説明会を7月13日に実施。(Zoom併用) 来校238組492名 Zoom69組(前年240組502名 Zoom56組)
- ⑤中学入試説明会を11月1日に実施。(Zoom併用) 来校316組513名 Zoom436組(前年307組506名 Zoom456組)
- ⑥中学入試説明会を11月1日に実施。(Zoom併用) 来校239組402名 Zoom352組(前年247組396名 Zoom312組)
- ⑦高校入試説明会を11月8日に実施。(Zoom併用) 来校138組267名 Zoom147組(前年111組222名 Zoom99組)

⑧高校入試説明会を12月13日に実施。(Zoom併用)来校138組274名 Zoom106組(前年154組304名 Zoom107組)

3) 塾、中学校との連携強化

①出張説明会は受験者数の多い地域と競合校への対策を引き続き考慮し、本年度は11か所で実施した。出張説明会実施に伴い、周辺の塾訪問を行い、オープンスクール、体育祭や7月の学校開催での説明会、9月の文化祭にも誘導した。また前年まで小学4・5・6年生対象であったが、今年は全学年対象の説明会に内容変更して実施し、本年は447組(前年:319組)と前年比1.40倍となった。

- ・4月19日 出張説明会 in 千里中央:89組 1,850名(前年:66組 105名)
- ・5月11日 出張説明会 in 西宮:70組 128名(前年:64組 106名)
- ・5月17日 出張説明会 in なかもず:31組 56名(注1)
- ・5月17日 出張説明会 in 泉大津:24組 41名(注1)
- ・6月21日 出張説明会 in 京都:16組 20名(前年:15組 22名)
- ・6月21日 出張説明会 in 枚方:37組 64名(前年:33組 57名)
- ・6月29日 出張説明会 in 堺東:43組 87名(前年:74組 121名)(注1)
- ・7月5日 出張説明会 in 橿原:30組 53名(前年:21組 33名)
- ・7月5日 出張説明会 in 学園前:45組 75名(前年:46組 79名)
- ・8月2日 出張説明会 in 三宮:21組 36名(新規)
- ・8月30日 出張説明会 in 茨木:41組 76名(新規)

(注1) なかもず、泉大津、堺東の泉州地域全体で98組 184名(前年:74組 121名)

②中学校訪問について、以前は6~7月(前期)、11~12月(後期)の2回実施していたが、昨年度より受験生が本校受験を視野に入れた進路相談ができるよう、9月~10月に1回中学校訪問を実施。また訪問回数を減らしたことを補うために、要望のあった中学校には学校案内および説明会チラシを郵送した。特に高校受験に力を入れている馬淵教室の塾生に対して、説明会などへの誘導を強化した。

6. 運営管理

1) 計画的雇用による優秀な教職員の確保、組織力の強化

令和7年5月1日現在、5教科の専任率は61.8%、専任・常勤率は69.6%、全体では66.1%であった。令和8年度も令和7年度と同等の率を目指し、令和7年5月2日から6月18日の間に、国語・数学・理科・英語および養護教諭の専任・常勤講師の募集を開始した。昨年度より募集開始を2週間早め、早期の教員獲得に努めた。ホームページ上のエントリー方式に変更して3年目となるが、エントリー総数は167名(昨年度90名)となった。※養護教諭応募者数:89名。

2) 施設整備

①4号館建て替え事業については、5月に5社へ依頼し4社から提案を受け、9月26日、30日に設計プロポーザルを実施し、設計・施工共に大林組へ依頼することが決定した。

②修繕工事等は、春季改修工事として、4月に1号館1階旧メディア教室(現113・114教室)の改修工事(5,341,380円)、1号館屋上ガラストッポフィルム改修(3,970,175円)、4号館

階段南北壁面塗装(3,784,000 円)等、総額 17,431,865 円の改修工事を実施。

③6 月に滴心館の 5 台の 2 段ベッド買替(1,324,950 円)を実施。

④7 月から 8 月にかけて校内無線 LAN 設備の再構築を 55,990,000 円で実施。

⑤夏季改修工事として、7 月から 9 月にかけて 1 号館食堂空調結露対策(3,410,000 円)、体育館空調室外機本体燃焼系部品交換作業(1,255,980 円)、校門戸車取替(715,000 円)等、総額 7,990,964 円の改修工事を実施。

⑥8 月に 76 台のプロジェクター及びスクリーン取替を 24,845,293 円で実施。

⑦冬季改修工事として、和光館非常放送設備改修(1,067,000 円)、和光館北側壁面漏水補修工事(403,920 円)、2 号館保健室手洗い場改修工事(306,900 円)等、総額 3,007,510 円の改修工事を実施。

3) 安定した財政基盤の構築

①予算額は減価償却資産繰入 188,540,000 円、施設準備資産繰入額 134,230,000 円の合計 322,770,000 円。

補正予算額は減価償却資産繰入 159,150,000 円、施設準備資産繰入額 133,370,000 円の合計 292,520,000 円。

②決算においては、減価償却資産繰入額 159,150,000 円、施設準備資金繰入額 133,670,000 円、合計 292,820,000 円を繰入。

③取り崩しは、減価償却で 95,668,273 円、施設設備で 135,107,924 円、合計 230,776,197 円を取り崩し、施設設備関係の特定資産全体では、令和 6 年度と比較し 62,043,803 円増額。

④4 号館建て替えに伴う資金計画を作成し、資金借入の時期や金額について検討。

⑤寄付金事業は、卒業生や一般の方への募集をホームページで掲載だけでなく、「四天王寺」誌に毎月掲載したほか以和貴会会報にチラシを同封するなど広く周知。令和 7 年度の寄付金額は 3 月現在で 1,145,000 円となり、寄付事業を開始した令和元年度からの累計で 16,661,000 円。

⑥前年度比較による予算の執行状況を作成し、執行率や内容の分析を行った。

⑦予算の制度向上と作成業務の効率化を図るため、予算案作成フォーマットの変更を行った。

四天王寺東高等学校・中学校

1. 教育

1) 仏教教育と人権教育の遂行

①4 月 8 日「大阪府仏教関係学校連合会合同釈尊降誕花まつり」への参加

②4 月 15 日中学 1 年生、高校 1 年生の四天王寺五智光院での新入生授戒会の入壇、続いて 5 月 28 日叡福寺(聖徳太子御廟)参拝

③5 月 6 日高校 3 年生(156 名)の四天王寺授戒灌頂会の入壇

④令和 7 年度の卒業生アンケートでは、高校 87.0%(昨年度 89.3%)、中学 90.3%(昨年度 88.8%)が「仏教教育、仏教行事が、適切に実施されている」との評価であった。教員の自己評価アンケートでは 69.8%(昨年度 77%)が「仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている」との評価であった。

⑤5月23日に中学1年生「差別について」、中学2年生「障がいについて」を実施した。同日に高校1年生「LGBTQの理解を深める」を、藤原直様をお招きし、講演を実施した。9月12日に中学3年生「震災・命の学習」、高校2年生「多文化共生、アイヌ文化の理解を深める」を実施した。11月1日に中学・高校全学年で人権教育映画「ズートピア」を鑑賞した。

⑥本年度の卒業生アンケートでは、高校85.1%(昨年度85%)、中学85.4%(昨年度86.2%)が「人権教育が、適切に実施されている」との評価であった。教員の自己評価アンケートでは、75.5%(昨年度76%)が「人権教育が適切に計画・実施されている」、82.5%(昨年度81.6%)が「いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている」との評価であった。

2) 学習指導要領への対応

①令和8年度の本校の教育課程の大きな改訂に向けて、カリキュラムマネジメントチーム(教務係6名)を中心に本校の「評価のつけ方」の原案が、ほぼできあがった。観点別評価については、各教科への原案が具体的にほぼできあがり、現在各教科と協力し、議論中である。今後、各教科にて、観点別評価についての細部を、令和8年度の1学期中に検討・決定していく。

②「情報」については、昨年度同様、各大学の「情報」の取り扱いに対する指導・対策について、教科と担任から、適切な指導を生徒に行った。情報科の教員を中心に、夏期講習中(7月)に希望制で講習を実施し、外部の模試なども活用した。

3) ICT教育の適正な導入と定着

①生徒に対してiPadを活用した授業(双方向授業や小テスト)が展開されている。また、英語科などでは、生成AIを活用した個別的な学習が行われている。授業以外にも、様々な調査・記録や投票など、iPadの使用は多岐を極める。教室の資料提示装置も授業をはじめ様々な場面で使用されている。

②Google Workspace for Education(グーグルの教育システム)を通じて、生徒一人ひとりにワードやエクセルなどのファイル送受信やアプリの登録に使用するためにGmail(Gメールアドレス)を付与することができた。

4) 放課後個別学習実施

①前期個別学習は4月28日から、後期個別学習は9月29日から、おおよそ午後5時10分から午後6時55分の時間帯で実施した。前期・後期ともに97名の受講となり、中学生2名につきチューター1名を配置した。

②曜日による回数の不公平感を減らすための振替の仕組みは、現状のチューターの人員数では難しく、且つまた、理系の大学生のチューターが少なく、今後の課題である。理系科目に対応するために、待合スペースに教材を置いて自由に使ってもらえるようにして、チューターに理系科目の勉強をしてもらった。チューターの増員に向けての募集方法は検討中である。

2. 学校生活の充実

1) 文化祭、体育祭、修学旅行等の学校行事及び、生徒会活動、クラブ活動の充実

- ①新入生と在校生の対面式は、4月8日の始業式後に体育館で実施した。生徒会役員の司会のもと、在校生代表挨拶および新入生代表挨拶を対面にて実施した。
- ②クラブ・同好会の紹介は、各クラブのポスターを下足箱前掲示板に掲示したほか、対面式後に体育館にて希望クラブによるパフォーマンスを実施し、さらに各クラブによるブース形式での部活動紹介を行った。
- ③芸術鑑賞会は、6月13日に本校を会場に、東京演劇集団「風」による演劇公演「ヘレンケラー〜ひびき合う者たち」を実施した。舞台の撤収作業に、多くの生徒たちが自主的に関わり、利他の精神の涵養となった。
- ④体育祭は、6月18日に朝潮橋のAsueアリーナ大阪で実施した。中学校・高等学校合同で、保護者の来場も可能とした。競技時間は10時から15時で、体育委員を中心に執り行った。生徒参加人数705名、保護者来場者704名(6年度620名、5年度495名)であった。
- ⑤海外語学研修は、7月28日から8月9日にオーストラリア・シドニーで実施した。生徒12名(中学3年生3名、高校1年生5名、高校2年生4名)、引率教員1名で実施した。参加した生徒の満足度は高く、研修参加後、校内に報告の掲示物を作成した。
- ⑥文化祭は昨年度とは大きく日程が異なり、1学期末の7月18日、19日に実施した。両日とも生徒は中学1年生から高校2年生が参加し、高校3年生は1日目のみ希望者の参加とした。保護者の来校も1日目のみで計358名の来場であった。(6年度218名)昨年度から行っている半日準備の期間をうまく活用し、厳しい日程ながらもクラス企画、クラブ企画、生徒会企画が昨年度と同じように実施された。また、昨年度にはなかった取り組みとして、有志企画による舞台発表が実施できた。
- ⑦修学旅行は、10月13日から16日3泊4日の日程で、高校2年生は北海道方面で、中学3年生は東北地方(宮城県・岩手県)で実施した。
- ⑧校外学習は、10月17日、中学1年生は「長居公園(長居博物館)」で、中学2年生は神戸市「人と防災未来センター」と元町南京町散策で、高校1年生は和歌山県の「ポルトヨーロッパ・黒潮市場」で実施した。
- ⑨スキー学舎は、いつもお世話になる新潟県の宿泊施設が使用できないため、実施できなかった。
- ⑩クラブの戦績報告会は、始業式、終業式、合同朝礼などを利用し、表彰式という形で実施した。(剣道部3件、卓球部1件、女子テニス部3件、男子テニス部1件、女子バレー部1件)放送部、中学剣道部、高校剣道部は4本の垂れ幕を作成し、生徒の活躍の宣揚ができた。
- ⑪入試イベントへの協力は、オープンスクールや入試説明会にて、高校生徒会長が学校紹介を行った。オープンスクールでは、中学生と高校生の有志42名の生徒による校内見学の案内や誘導、アンケート回収の手伝いなどを行った。また、新たに生徒会企画として「先輩と話そう」というブースを設け、来校者に対しての質疑応答などを行った。
- ⑫クラブ費の支給は、物価高騰の影響を考慮して昨年度から全体でプラス11万円の支給とし、各クラブとの調整のうえ、運動部11部、文化部11部に対して物品購入費とし

て総額約 76 万円と予備費 10 万円の支給をした。

2) 生徒指導の充実

- ①ほめる指導で、遅刻・欠席の件数については、昨年度と同様減少傾向にあるが、起立性調節障害や不登校の生徒も複数在籍しているため、保護者との連絡を密にし、継続的に指導を行っている。
- ②SNS の問題は、8 月 28 日に中学 1 年生、高校 1 年生を対象とした情報安全教室を、NIT 情報技術推進ネットワーク株式会社 筒崎眞美様をお招きして実施し、講話を通じて啓蒙を行った。
- ③薬物乱用防止教室は、11 月 20 日に高校 1 年生を対象として実施した。富田林サポートセンターから岡本寿文様をお招きし、具体的な事案を紹介していただき、薬物だけでなく、SNS の利用方法や闇バイトについての危険についても講話をしていただいた。

3) 交通安全講習、避難訓練等の実施

- ①自転車交通安全教室は 4 月 10 日の新入生オリエンテーションで、生徒指導部長から、通学経路の確認、駐輪場の場所が工事の関係で変更されていることや、ヘルメットの着用を推奨するとともに、道路交通法改正にも触れ、講習を実施した。
- ②全校生徒対象の火災避難訓練は、春は雨天のため実施できなかったが、11 月 5 日に 880 万人訓練を実施した。例年とは違い、授業中を想定した訓練を実施した。避難完了時間は 4 分 46 秒(昨年度は 5 分 12 秒)であった。

4) 学校カウンセラーの充実

カウンセラーの存在の周知は、4 月 10 日の新入生オリエンテーションにおいて、問題を抱えている生徒が学校生活をよりよく過ごすことができるように、人権係からスクールカウンセラーの存在と相談室の利用方法についての説明をした。カウンセラーと相談室来室の生徒の当該学年、当該クラス担当の教員とは十分に情報共有できている。

3. 進路指導

1) 進路説明会、面談等の定期的な実施

- ①高校 3 年生の進路指導は、進路カンファレンスで、まず、学校推薦型(併願)で進路を確保し、一般入試で第 1 志望を目指す指導を行った。
- ②国公立大学合格実績を向上させるため、5 月 8 日実施の高校 3 年生の大学別入試説明会において、夕陽丘予備校の方に国公立大学のブース設置を依頼し、概要・近畿圏の国公立大学についての講座を 2 コマ実施した。
- ③高校 1 年生対象の社会人講話を、10 月 23 日に実施した。講師の勝田 美奈子 様に昨年度よりも講演方法を生徒が理解しやすい方法に改善していただき、ワークショップなどを取り入れたことで、生徒は熱心に会に参加してくれた。

2) 高大連携システム改革への対応

- ①高大連携授業は、7 月 23 日から 7 月 30 日までの夏期講習の午後に実施したが、連携授業は四天王寺大学と大阪工業大学の 2 大学で、それ以上に増やすことはできなかった。来年度は 2 学期制に移行のため夏期講習が実施されないのに、高校 1・2 年生向けに、多くの大学を招聘し高大連携授業を実施する計画である。

- ②高校1年生全員が、7月14日のIBU Dayで四天王寺大学を訪問した。高校1年生は、さらに、7月25日に近畿大学へ希望者を引率し、大学見学を実施した。また、高校3年生は、大阪公立大学の見学を企画したが、大学側との時期が合わないため、7月14日に四天王寺大学、関西大学、近畿大学、森之宮医療大学に分散して大学見学を実施した。

4. 職員研修

1) 仏教研修の実施

7月25日に四天王寺小学校・四天王寺東中学校・四天王寺東高等学校 教職員合同の仏教研修会を実施した(小中高教職員90名出席)。和宗総本山 四天王寺 法務部 法務課 課長 加藤公啓師より「新入生授戒会」と、高校三年生と教職員が受けさせていただく「授戒灌頂会」の意義について解説いただいた。仏教の儀式・儀礼の詳しい内容を学ぶことができ、今後の業務や生活に生かしていく。

2) いじめ防止、諸問題を抱えている生徒への対応

- ①5月12日から5月16日まで中学・高校全学年、第1回心の健康アンケートを実施した。10月20日から10月24日まで中学・高校全学年、第2回心の健康アンケートを実施した。

- ②4月4日に人権教育係高校主担から、職員人権研修「不登校生徒の対応について」を実施した。(教職員68名参加)

3) 職員間のハラスメントに関する研修を実施

4月30日に「ハラスメントについての理解を深める」を、大阪企業人権協議会サポートセンターより三井梨香子様をお招きし、講演を実施した。(教職員49名参加)

4) 救命活動に関する研修の実施

- ①救急救命講習は、教員を対象に4月23日(27名)、5月14日(28名)に実施した。高校1年在籍の生徒がペースメーカー装着のため、症病報告とペースメーカー装着者の電極パッドの貼付場所及び救急処置の指示系統の見直しとAED設置場所の再確認を行った。

- ②4月4日の教員会議時に、教員に動画配信し講習を実施した。保健室に練習用エピペンを準備しているので、練習の呼びかけを行った。誤嚥・窒息時についてもハイムリッヒ法などを試した後は、心肺蘇生法を開始し、救急処置の指示系統に従って連携して行うことを伝えた。

5) ICT教育等に関する研修

- ①新着任者向けの研修は、ニーズが無かったため実施しなかった。今後は着任される教員の習熟を鑑みながら、個別に対応する。

- ②5月20日に全教員を対象に授業におけるChat GPTを中心とした生成AIの活用について研修を実施した。

6) 学習・学力に関する指導力をつける研修

現教員については、「駿台教育探究セミナー」(オンラインセミナーを含む)の春期夏期冬期に、英語科教員8名、数学科教員3名、国語科教員3名、理科科教員3名、社会科教員4名が参加し、研鑽を積んだ。さらに4月から3月初頭までに、各教科の研究会など

の研修に、英語科教員 2 名、数学科科教員 2 名、理学科科教員 2 名、社会科教員 2 名、保健体育科 1 名、総合的な探究係 3 名が参加し、研鑽を積んだ。

5. 広報

1) 本校志望者向けホームページ、入試説明会、体験学習による広報の充実

- ①6 月 7 日中学入試体験学習会 参加者:94 組(昨年度 82 組)
- ②9 月 6 日オープンスクール(高校入試、中学入試対象) 参加者:308 組 642 名(昨年度 329 組 647 名)
- ③9 月 20 日オープンスクール(高校入試、中学入試対象) 参加者:299 組 593 名(昨年度 283 組 529 名)
- ④上述のオープンスクール 2 回合計 参加者:607 組 1,235 名(昨年度 612 組 1,176 名)
- ⑤10 月 11 日第 1 回中学入試説明会 参加者:50 組 110 名(昨年度 30 組 59 名)
- ⑥公立中学校先生対象説明会(本校)は、今年度より未実施(昨年度参加者 28 校 30 名)
- ⑦9 月 9 日塾先生対象説明会(都シティ大阪天王寺) 参加者:41 塾 49 名(昨年度 9 月参加者 50 塾 61 名)
- ⑧9 月 10 日塾先生対象説明会(グランドメルキュール奈良橿原) 参加者:23 塾 25 名(昨年度 5 月参加者 33 塾 40 名)
- ⑨9 月 11 日塾先生対象説明会(本校) 参加者:47 塾 54 名(昨年度 9 月参加者 39 塾 42 名)
- ⑩上述の塾説明会 3 回合計 参加塾:111 塾 128 名(昨年度 5 月 2 回、9 月 2 回実施 4 回合計 177 塾 208 名)
- ⑪塾訪問数を昨年度は精査し、245 塾訪問した。今年度はさらに精査を行い、昨年度より 17 塾減の 228 塾を訪問し、令和 8 年度から実施する週 5 日制、2 学期制の周知徹底を行った。
- ⑫中学入試は志願者が 155 名(昨年 135 名)、入学予定者が S 特進コース 44 名、特進コース 25 名、計 69 名が入学。(昨年 57 名)特記として、S 特進コースが昨年 33 名より 11 名増えた。高校入試 1 次の志願者は、専願 112 名、併願 297 名、計 409 名(昨年 437 名)と昨年度より減少した。

2) 在校生向けホームページの充実

- ①本年度 4 月よりホームページがリニューアルされ、「東の日常」が一般向けと保護者及び生徒向けに分けることができるようになった。4 月から 3 月の更新件数が 119 件(昨年度 81 件)であった。海外研修や文化祭、修学旅行といった行事は閲覧数が多く関心が高いと思われる。引き続き満足度向上に努めたい。
- ②各クラブ投稿専用フォルダーを設定し、声掛けを行っていたが、更新件数が増えていない状況であった。これは個人のスマートフォンなどによる撮影ができない状況も影響していると思われる。今後、部活動の状況や授業風景といった取り組みについても更新回数を増やしていきたい。

6. 運営管理

1) 高い水準の教員確保

退職予定者の補充等に伴う令和 8 年度の教員確保については、第 1 段として英語・国語・

社会・数学・保健体育・美術・仏教の常勤・非常勤教員を令和7年9月13日締切で公募し、1次(書類選考)、2次、3次選考を実施したが、国語科1名の常勤講師の確保にとどまった。令和8年1月以降、令和8年度予想入学者数及び新高校2年生等の予想クラス編成に基づき、英語・国語・社会・数学・美術の非常勤講師の確保に努めた。

2) ICT 環境の整備

①Apple TV をすべての普通教室に配置し、選択教室は複数の教室で共用(7 教室で5 台)している。選択教室での利用頻度も多くなっているため、各教室への配置を進めていく。また、普通教室に設置しているプロジェクターコンソールの破損等については、リモコン操作で補えるが、メーカーに改良要望を依頼している。

②Google Workspace for Education に教員・生徒の Gmail(G メールアドレス)登録を完了した。設定において、担当教員への負担が大きかったため、今後、改善策を検討していく。

3) 学校評価アンケートの実施と PDCA サイクルの実行

昨年度の学校評価の結果から、下記の事項を今年度の重点目標として、それぞれ取り組みを行った。

①生徒会活動が活発に行われている。

各委員会の目標のポスター作成、生徒総会に向けての各委員会での発表内容の検討会。

②家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている。

キャリア教育や進路教材での動機づけ、英語・国語・数学の各教科からの週末課題。

③教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。

学校に案内が来た研修の教員へのアナウンス、研修に参加した教員の研修内容の解説会、研修フォルダーによる研修内容の共有。

7. 教育設備の充実

1)8 月に校内ネットワークの更新を行い、バージョンアップが完了した。

2)10 月に教職員パソコンを Windows11 搭載機種に買替え、情報教室のパソコンにおいては、Windows11 に更新を行い、バージョンアップを実施した。

3)クラブ更衣室の新築について、小学校プール跡地に建設。8 月よりプール解体、地盤改良、12 月地鎮祭並びに工事安全祈願法要、令和8 年6 月に完成を目指した。

四天王寺小学校

1. 教育

1) 仏教教育

「仏教教育校外学習」は、和宗総本山四天王寺にて1 年生は10 月29 日、2 年生は10 月7 日、3 年生は10 月15 日、4 年生は11 月4 日、5 年生は11 月10 日、6 年生は10 月6 日に「舍利出し・清掃活動・写経」などを実施した。仏教教育として、1～3 年生は「仏教の教え」と称し「生活の中にある仏教の教え」、4～6 年生は「以和貴タイム」と称し、「釈尊の誕生から出家、成道、そして入滅まで」の授業をおこなった。また、1～3 年生は「ともいきタイム」、4～6 年生は「ともいきの集い」と称し、全学年共通の「おもいやりの心をもとう～聖徳太子の和の心

～」のテーマで和宗仏教青年連盟のみなさまにご教授をいただき、これらを通じ「和の精神」「利他の精神」の醸成に努めた。

2) 受験学力養成に向けたカリキュラム変更

6 年完結型小学校として、中学入試の問題分析を実施し、令和 6 年度より算数科において単元配列を工夫した年間指導計画（令和 5 年度作成）を実施した。令和 6 年度作成した全学年の国語科、社会科、理科についても、本年度より新カリキュラムを実施した。

3) 探究型授業のレベルアップ

本年度においても令和 6 年度に新設した教育研究部には全教員が所属し、各教科部会の組織強化を継続し図った。全ての授業を探究型授業（児童が学習意欲を高め主体的に学びに向かうことで、豊かな思考力・判断力・表現力を育成する授業）で実施することを目指し、積極的に研修に取り組むことにより、年間 3 回の全体研究授業（2 年生（12/15）3 年生（9/25）5 年生（10/27））を実施し、教員の指導力向上を図った。

4) 海外研修の実施と検証

本格実施 2 回目となった本年度は、さらに企画・実施体制を組織化させ、海外研修（ハワイ）の反省と検証をもとに、改良点として、現地での訪問小学校を 2 校に増やし、現地の大学生との英語での交流に重点を置くなど、現地の学校の課業期間である 11 月（11 月 16 日～21 日：5 泊 6 日）実施に変更することで、交流体験を充実させた。英語担当・教務部長を中心に、英語科、学年、事務局が協働して海外研修プロジェクトチームを立ち上げ、計画的に取り組みを進めることができた。

5) 塾との連携、進路指導

日能研関西との TT（チーム・ティーチング）授業（令和 8 年度より「受験対策授業」に改称）で中学入試に対応できる学力を育成するとともに、月組（基礎基本の定着に重きをおいたクラス）をさらに 2 分割し、本校教員が指導にあたるなど児童のフォローアップを充実させた。また、本校の TT 授業を塾の開講時期である 2 月に合わせるために国語・社会・算数・理科、4 教科のカリキュラム改善をおこなった。そうしたことで、スムーズな TT 授業のスタートを切ることができた。昨年度、読解力育成のために新設した「日能研読解力養成講座（よみかきクエスト）」により、受講児童の読解力・表現力の向上に繋がった。令和 8 年度からは名称を「日能研読解力養成講座（ことばの学校）」とし、さらなる内容の充実を図る。

6) 水泳学習の充実

令和 5 年度より開始した「コ・ス・パ藤井寺」を活用した水泳学習を継続し、学習期間を 6 月から 10 月までの 4 カ月とし、1 回の入水時間を 40 分間以上確保して、少人数等グループでの指導を実現することにより、児童の泳力向上に繋がった。

2. 学校生活の充実

1) 安全・安心な学校づくりの推進

いじめを起こさせない指導と、いじめにつながる問題行動やトラブルの早期発見、解決を「生活指導連絡会」（毎週 1 回開催）や「いじめ防止等特別委員会」（随時開催）を中心に実施した。年 2 回の「いじめアンケート」を実施し、その結果をもとにすべての事案を調査し解決を図った。しかしながら、解決に長期間を要するいじめ事案が 1 件あり、対応に苦慮する場面もあつ

た。その学年には3回目のいじめアンケートと全児童への聞き取りを実施した。最終保護者を含む協議を実施し、新年度を迎えることができた。「いじめ防止等特別委員会」は7度開催し、早期解決に努めたが、管理職が対応する案件が4件あった。そのため年度末にいじめに関する研修を実施し、早期発見・早期解決に向けた取り組みを再確認した。

2) きまりやマナーを守る態度の確立

近鉄電車での登校支援では、引き続き教員が同乗し安全とマナー指導をおこなった。近年は自家用車での送迎の児童が増加しているが、一定数、公共交通機関を利用しているため、継続した指導をおこなっていく。また、フォローアップ教室やアフタースクールなどによる下校時間帯も多岐にわかれているが、指導の徹底をおこない改善が見られた。ただ、一般客や通行人からのクレームも数件受けているので、今後も継続した指導を実施していく。「引渡し訓練」は2回目となり、多くの保護者にお迎えにお越しいただき、学校の体制も整ってきた。

3) 学校行事における児童の主体性の支援

本年度も多く保護者等を招き、児童会を中心に各分掌、事務局が協働して計画的に実施できた。とりわけ「たいし子どもまつり」では児童の主体性が発揮できた。また、昨年度実施していた午後からの発表会は、アフター教室とたいし合唱団に絞ったことで、スムーズな進行となった。来年度は、初めての「たてわり班遠足」の実施に向けて取り組んでいく計画である。

3. 進路指導

1) 最難関校合格支援

TT授業（日能研関西と連携した中学入試対策授業）内のテキストに充分対応できている児童に対してはさらに難度の高い教材を提供して指導し効果をあげた。また、日能研関西の特別特訓の受講を勧めるなど、最難関校合格への進路指導を充実させた。

2) 進度や難度に困難を感じる児童への学習支援

TT授業の進度や学習レベルに難しさを感じている児童、月組（基礎基本の定着に重きをおいたクラス）も実際には在籍しているので、算数科の複数教員体制を継続し、さらに、特定児童を抽出して個別少人数指導を行い学習支援をおこなった。さらに、「たいし教室」（放課後学習、TT授業の宿題や質問を行う時間：令和8年度からは「受験対策授業フォローアップ教室」と改称）でフォローアップに努めた。

3) 多様な進路選択を支援する進路指導体制

進路指導説明会や、本校独自の中学校見学会（令和7年度：四天王寺、四天王寺東、西大和学園、奈良学園、清風、大谷、明星、帝塚山学院、清風南海の9校）を実施し、各校の特色に触れるとともに、中学受験に向けた心構えや学び方、志望校選びを支援した。また、進路指導部員のみならず全教員の進路指導力を向上させるため主要難関校の入試問題に取り組み、出題傾向を知るなどの研修会を実施した。児童の指導に生かすとともに、自身の指導を振り返る機会となった。

4) テスト結果の分析と対策

育伸社実力テストや日能研模試、主要中学校入試の経年比較を行い、それぞれの学年で克服すべき学習課題を共有することで、新カリキュラムに反映させた。TT授業に備えて開催してきた中学年での「学習塾講座」についても、困難を感じている児童を支援し、力をつけさせ

るための宿題や確認テスト支援を実施した。

5) 進路決定後の継続指導強化

6年生の進路決定後、開放感からそれまでの学習習慣を保持できないという課題に向けて、中学校進学までの間に開催される日能研をはじめとするプレ講座を受講することを勧めた。また、規則正しく自律的な生活習慣を維持し、自身の志に向かって努力を維持する児童育成に向け、6年担任を中心に指導に努めた。とりわけ早期に進路が決定する四天王寺中学校、四天王寺東中学校への特別選抜制度利用児童において11月の模試終了後に校長が再度個別面談を実施するなど内定児童への指導をおこなった。

4. 職員研修

1) 仏教研修

和宗総本山四天王寺より講師をお招きし(7/25)、教職員向けの仏教に関する研修(四天王寺学園新入生授戒会と授戒灌頂会について)を実施した。「五戒」「三聚淨戒」に始まり、「授戒会」と「授戒灌頂会」の違いなどについて講話を受けた。

2) 学力保障や向上に向けた取り組みの充実

全教員が最難関中学校をはじめ難関中学校、有名私立中学校の入試問題を解き、出題傾向を研究することを通して、より高いレベルの授業を実施できるよう研修に努めた。日能研関西と協働し、受験に有用なカリキュラム研究をおこなった。

3) 教科指導力の向上

児童の学習意欲をより高めるとともに、確かな学力を身につけさせることをねらい、全ての授業を「探究型学習」で実施できるように全学年で研究授業(全体研究授業 2年生(12月15日)3年生(9月25日)5年生(10月27日)(学年研究授業 1年生(1月24日)3年生(11月29日)6年生(7月10日))をおこなった。全教員で互いの授業を見合い、反省・改善する機会を設け、指導力向上に努めた。また、各教科研究の担当や主任を明確にすることで教材研究や授業法の研修を活性化させた。

4) ICTを活用した学習の推進

各学年の発達段階と教科学習の必要性に応じてタブレット端末を活用し、学習を進めた。児童は学習の中で操作法等や基本スキルを取得することができた。引き続き、授業においては積極的に活用すること、自ら必要な情報を取捨選択し活用できること、より効果的なプレゼンテーションを作成することなど、探究型学習活動に必要なスキルを身につけさせるよう取組を進める。

5. 広報

1) HPやInstagramでの魅力発信

学校行事や授業の様子などを積極的に発信した。本年度の公開頻度はHP:約28本/月 Instagram:約47.4本/月となり、ブログ(HP)は減少したが、Instagramは増加した。本年度はブログ(HP)より閲覧数の多いInstagramに力を入れた結果となった。今後さらに発信の仕方について検討し、イベント・受験者数への参加者の増加につなげていく。

2) 園や幼児教室との連携強化

園や幼児教室での出前授業・講演会を実施して、本校の周知を進め、私学志向の掘り起しと

もに、本校への関心を高めた。今年度からは幼児教室との連携強化をさらに進め受験者数の増加につなげていく。

3) 対象を明確にした広報イベント

令和 8 年度入学において児童募集イベント参加者数は前年度比平均 1.15 倍と増加している。また、受験者数は、昨年度比 1.25 倍、入学者数は同 1.33 倍と増加した。引き続き、イベント参加者を入試受験にまで繋げていく。

4) 入試日程の改善

受験者家庭がより受験しやすくするために、令和 7 年度実施 A 日程入試では、「親子面接日」について日曜日を含む 7 日間（8 月 29 日（金）～9 月 4 日（木））に拡大した。来年度は、A 日程と B 日程の間を空けて受験者が準備しやすいよう配慮し、さらなる受験者数増加を図る。

6. 管理・運営

1) 安全・安心な学校づくり

例年実施してきた防災（火災）に対する訓練等に加え、南海トラフ地震等の大規模災害が発生し、交通機関等が止まる事態を想定した「緊急時の児童引渡し訓練」（2 回目）を実施（9/13）全児童の 77.7%（昨年度 76%）の参加を得た。引き続き、災害時の防災意識を高めるとともに、保護者への啓発をおこなっていく。

2) 教育環境の整備

整備されている児童の ICT 環境を活用し、すべての学年において ICT 機器を有効に活用した授業が展開されている。また、ゲストティーチャーを招いた児童の情報モラルの向上に向けた学習活動もおこなった。

3) 学校評価の有効活用

学校が実施した教育活動について、教員・保護者からの振り返りをおこなうとともに、保護者や外部有識者の意見に耳を傾ける姿勢を大切にして教育活動にフィードバックをした。また、年度末評価を分析し、信頼され、支持される学校づくりに向けて努力を継続していく。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産の総額は 47,564,400 千円で、前年比では 385,342 千円 (0.8%) の減少になった。内訳として、固定資産である土地、建物、備品、図書等の有形固定資産では 206,755 千円 (0.6%) の減少の 33,497,693 千円となり、特定資産では 12,607 千円 (0.1%) の増加の 8,786,505 千円、その他の固定資産では 18,000 千円 (8.7%) の減少の 188,170 千円となった。また、流動資産である現金、預金、未収入金等は 173,194 千円 (3.3%) の減少の 5,092,032 千円となった。

一方、負債の総額は 4,733,969 千円で、前年比では 270,519 千円 (6.1%) の増加となった。内訳として、固定負債である長期借入金、退職給与引当金などが 214,812 千円 (8.2%) の減少の 2,390,245 千円となり、流動負債では前受金、未払金などに加え当年度より学校法人会計基準改正により、引当金の計上基準が明確化されたことに伴い賞与引当金を計上したことにより、485,331 千円 (26.1%) の増加の 2,343,725 千円となった。

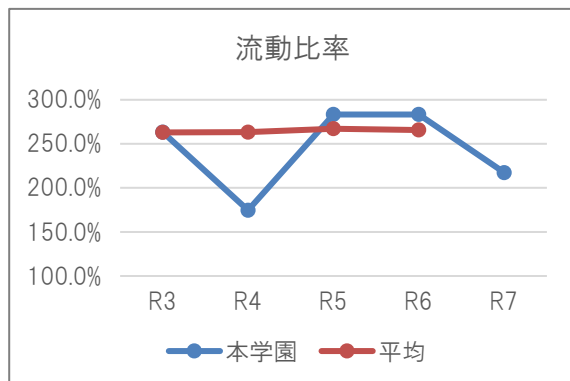
基本金は 63,794,303 千円で、前年比では 768,028 千円 (1.2%) の増加となった。以上の結果、資産の部合計から負債の部合計を控除した純資産の部は前年度より、655,861 千円 (1.5%) の減少の 42,830,431 千円となった。

貸借対照表の経年比較

単位：千円

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	43,208,143	42,959,643	42,883,986	42,684,516	42,472,368
流動資産	5,187,471	5,251,053	5,394,719	5,265,226	5,092,032
資産総額	48,395,614	48,210,696	48,278,705	47,949,742	47,564,400
固定負債	3,360,172	1,987,380	2,833,221	2,605,057	2,390,244
流動負債	1,971,758	3,006,824	1,904,038	1,858,393	2,343,725
負債総額	5,331,930	4,994,204	4,737,259	4,463,450	4,733,969
基本金	61,633,287	62,084,449	62,636,905	63,026,275	63,794,303
繰越収支差額	△18,569,603	△18,867,957	△19,095,459	△19,539,983	△20,963,872
純資産総額	43,063,684	43,216,492	43,541,446	43,486,292	42,830,431
負債・純資産合計	48,395,614	48,210,696	48,278,705	47,949,742	47,564,400

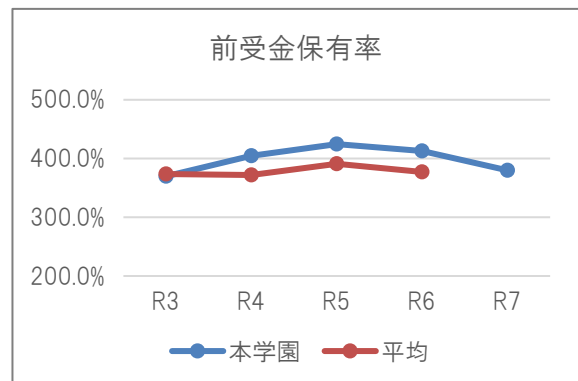
イ) 財務比率の経年比較



《解説》

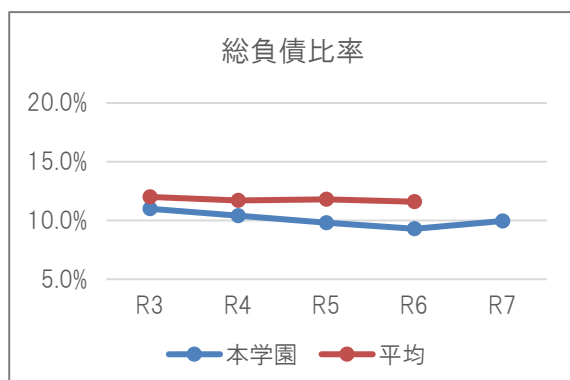
流動負債に対する流動資産の割合である学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。

一般的には、この比率が 200%以上であれば優良とみなしている。100%を下回っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していると見られる。



《解説》

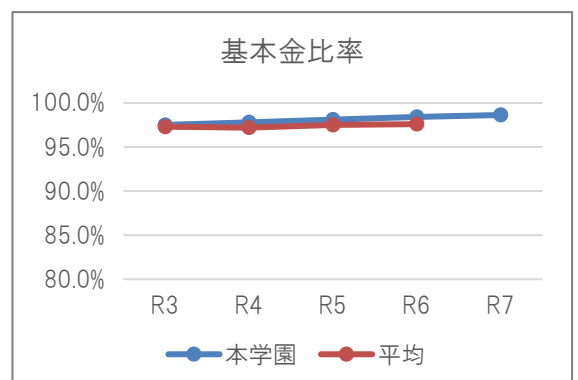
前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金である現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率であり、100%を超えることが一般的とされている。



《解説》

固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資本の比重を評価する極めて重要な比率である。

この比率は一般的に低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ること示し、さらに100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。



《解説》

基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合である。この比率は 100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示している。未組入額があることは、すなわち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味するため、100%に近いことが望ましい。

※「平均」は日本私立学校振興・共済事業団が発行する「今日の私学財政」より抽出

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部合計は 16,383,906 千円となり、前年比 622,277 千円 (3.9%) の増収となった。学生生徒等納付金収入では前年比 150,161 千円 (2.2%) 増収の 6,785,116 千円、補助金収入では前年比 568,774 千円 (25.8%) 増収の 2,769,310 千円、雑収入では前年比 79,247 千円 (23.3%) 減収の 261,517 千円となった。

支出の部では、人件費支出では前年比 35,547 千円（5.9％）の支出減で 6,028,044 千円となったが、教育研究経費支出では前年比 493,272 千円（23.5％）の支出増の 2,596,167 千円、管理経費支出では 37,740 千円（3.8％）の支出増の 1,035,786 千円となり、翌年度繰越支払資金は前年比 97,275 千円（2.0％）減額の 4,855,203 千円となった。

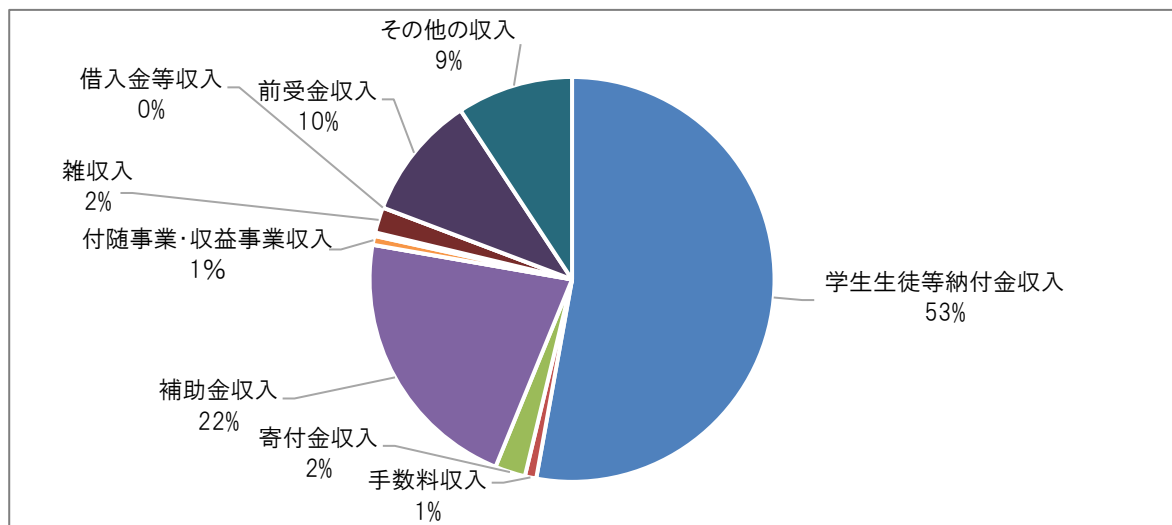
資金収支計算書の経年比較

単位：千円

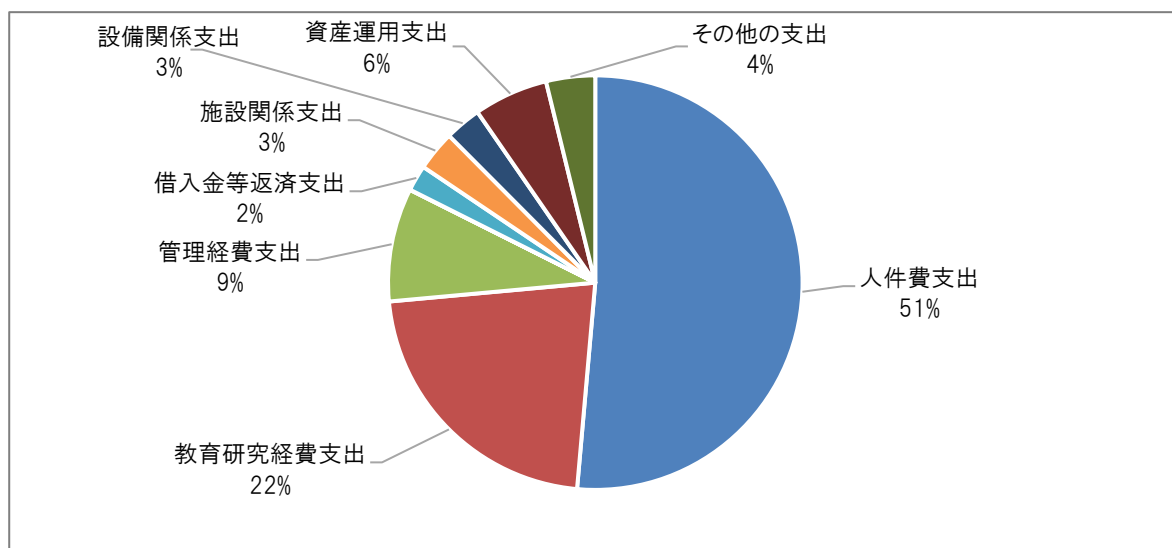
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
学生生徒等納付金収入	7,361,690	7,466,445	7,302,154	6,935,277	6,785,116
手数料収入	123,658	110,683	103,831	111,289	116,960
寄付金収入	297,151	298,518	268,810	307,070	311,070
補助金収入	1,970,862	2,051,548	2,098,128	2,200,536	2,769,310
資産売却収入	75	3,758	0	0	0
付随事業・収益事業収入	117,825	214,701	87,061	104,562	91,423
受取利息・配当金収入	912	7,009	12,952	28,138	36,045
雑収入	342,553	291,993	320,434	340,764	261,517
借入金等収入	0	0	1,150,000	0	0
前受金収入	1,314,408	1,235,469	1,194,030	1,199,613	1,278,265
その他の収入	913,240	1,034,858	1,032,337	940,518	1,190,829
資金収入調整勘定	△1,657,734	△1,542,302	△1,518,760	△1,474,786	△1,409,107
前年度繰越支払資金	4,762,788	4,862,230	4,998,259	5,068,648	4,952,478
収入合計	15,547,428	16,034,910	17,049,236	15,761,629	16,383,906
人件費支出	6,048,404	5,929,163	5,957,020	6,063,591	6,028,044
教育研究経費支出	1,956,301	2,292,254	2,052,679	2,102,896	2,596,168
管理経費支出	859,618	1,011,612	984,493	998,046	1,035,786
借入金等利息支出	14,418	13,339	10,184	2,911	2,409
借入金等返済支出	225,000	225,000	1,378,194	237,776	237,776
施設関係支出	158,440	85,481	100,112	87,853	364,304
設備関係支出	152,227	173,508	185,280	297,184	332,544
資産運用支出	986,888	1,094,896	1,115,485	779,883	679,960
その他の支出	475,773	434,457	455,648	487,500	449,434
資金支出調整勘定	△191,871	△223,059	△258,507	△248,489	△197,722
翌年度繰越支払資金	4,862,230	4,998,259	5,068,648	4,952,478	4,855,203
支出合計	15,547,428	16,034,910	17,049,236	15,761,629	6,785,116

令和 7 年度

資金収入構成比率



資金支出構成比率



イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収入は、前年度比 320,034 千円（3.2%）増の 10,297,835 千円となった。資金支出は 493,352 千円（5.4%）増の 9,657,885 千円となった。調整勘定等を加えた収支差額は 50,930 千円（6.0%）減の 799,711 千円となった。

施設整備等活動による資金収入は、前年度比 272,849 千円（66.0%）増の 686,274 千円となった。資金支出は 312,611 千円（29.4%）増の 1,376,808 千円となった。調整勘定を加えた収支差額は 38,897 千円（5.6%）減の△730,982 千円となった。

その他の活動による資金収入は 1,425 千円（0.5%）増の 295,439 千円となった。資金支出については 102,880 千円（18.1%）減の 465,897 千円となった。調整勘定を加えた収支差額は 18,896 千円（16.3%）減の△97,275 千円となった。

活動区分資金収支計算書の経年比較

単位：千円

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
資金収支 教育活動	資金収入計	10,173,343	10,392,267	10,158,024	9,977,801	10,297,835
	資金支出計	8,857,148	9,232,714	8,993,638	9,164,533	9,657,885
	差引	1,316,195	1,159,553	1,164,386	813,268	639,950
	調整勘定等	△194,148	5,732	△128,996	37,373	159,761
	収支差額	1,122,047	1,165,285	1,035,390	850,641	799,711
施設整備等活動 資金収支	資金収入計	440,773	551,088	547,632	413,425	686,274
	資金支出計	1,297,555	1,353,885	1,400,174	1,064,197	1,376,808
	差引	△856,782	△802,797	△852,542	△650,772	△690,534
	調整勘定	25,944	△1,284	69,057	△41,313	△40,448
	収支差額	△830,838	△804,081	△783,485	△692,085	△730,982
小計		291,209	361,204	251,905	158,556	68,729
その他の活動 資金収支	資金収入計	314,805	256,607	1,442,257	294,014	295,439
	資金支出計	506,244	483,229	1,623,387	568,777	465,897
	差引	△191,439	△226,622	△181,130	△274,763	△170,458
	調整勘定等	△328	1,447	△385	36	4,454
	収支差額	△191,767	△225,175	△181,515	△274,727	△166,004
支払資金の増減額		99,442	136,029	70,390	△116,171	△97,275
前年度繰越支払資金		4,762,788	4,862,230	4,998,259	5,068,648	4,952,478
翌年度繰越支払資金		4,862,230	4,998,259	5,068,648	4,952,477	4,855,202

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

学生生徒等納付金、手数料、経常費補助金等の教育活動収入計は、10,178,880 千円となり、前年比で 367,782 千円(3.7%)の増収となった。人件費、教育研究経費、管理経費等の教育活動支出は 10,490,243 千円となり、前年比で 575,227 千円(5.8%)の増加となった。教育活動収入計から教育活動支出計を差引いた教育活動収支差額は、△311,363 千円となった。

一方、受取利息・配当金等の教育活動外収入計は、36,045 千円となった。借入金等利息等の教育活動外支出計は 2,409 千円となった。教育活動外収入計から教育活動外支出計を差引いた教育活動外収支差額は 33,636 千円となった。

結果、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した経常収支差額は、△277,727 千円となった。

施設設備に係る現物寄付や補助金等の特別収入計が 45,564 千円となった。特別支出計は 423,699 千円となり、特別収入計から特別支出計を差引いた特別収支差額は、△378,134 千円となった。

経常収支差額と特別収支差額を合算した基本金組入前当年度収支差額は、△655,861 千円となった。

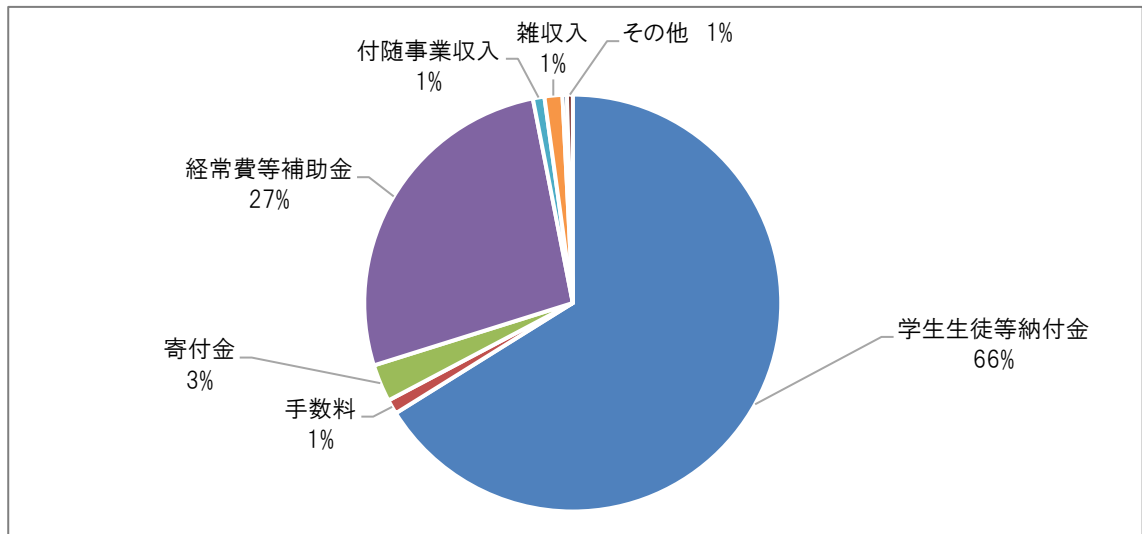
事業活動収支計算書の経年比較

単位：千円

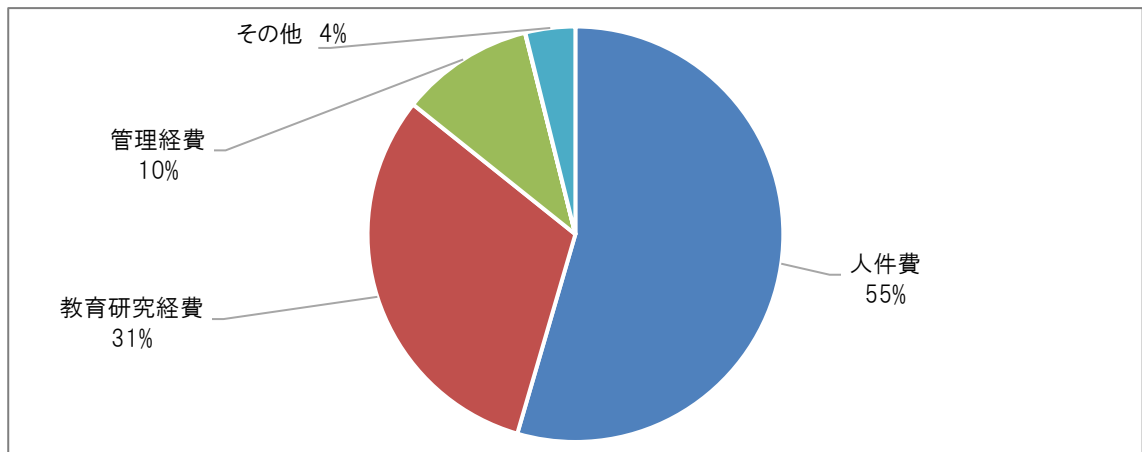
科目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,361,690	7,466,445	7,302,154	6,935,277	6,785,115
	手数料	123,657	110,683	103,831	111,289	116,960
	寄付金	278,151	278,518	256,306	296,603	297,630
	経常費等補助金	1,949,466	2,029,927	2,088,237	2,190,011	2,745,190
	付随事業収入	117,825	214,701	87,061	104,562	91,423
	雑収入	199,846	220,577	185,414	173,356	142,562
	収入計	10,030,635	10,320,851	10,023,003	9,811,098	10,178,880
	人件費	5,773,867	5,830,354	5,786,758	5,890,885	5,951,610
	教育研究経費	2,898,433	3,252,446	2,880,156	2,926,149	3,407,160
	管理経費	960,722	1,120,132	1,074,985	1,097,982	1,131,473
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	支出計	9,633,022	10,202,932	9,741,899	9,915,016	10,490,243
	収支差額	397,613	117,919	281,104	△103,918	△311,363
	収支差額	397,613	117,919	281,104	△103,918	△311,363
教育活動外収支	受取利息・配当金	912	7,009	12,952	28,139	36,045
	収入計	912	7,009	12,952	28,139	36,045
	借入金等利息	14,418	13,340	10,184	2,911	2,409
	支出計	14,418	13,340	10,184	2,911	2,409
	収支差額	△13,505	△6,331	2,768	25,228	33,636
経常収支差額		384,108	111,588	283,872	△78,690	△277,727
特別収支	資産売却差額	0	1,798	0	0	0
	その他の特別収入	57,196	52,758	49,607	31,341	45,565
	収入計	57,196	54,556	49,607	31,341	45,565
	資産処分差額	7,381	13,022	7,971	7,805	2,824
	その他の特別支出	7,175	314	554	0	420,875
	支出計	14,556	13,336	8,525	7,805	423,699
	収支差額	42,640	41,220	41,082	23,536	△378,134
基本金組入前当年度収支差額		426,748	152,808	324,954	△55,154	△655,861
基本金組入額合計		△551,950	△453,700	△552,456	△406,735	△859,489
当年度収支差額		△173,254	△300,892	△227,502	△461,889	△1,515,350
前年度繰越収支差額		△18,533,553	△18,569,603	△18,867,957	△19,095,459	△19,539,983
基本金取崩額		0	2,538	0	17,365	91,462
翌年度繰越収支差額		△18,569,603	△18,867,957	△19,095,459	△19,539,983	△20,963,872
(参考)						
事業活動収入計		10,088,744	10,382,416	10,085,562	9,870,578	10,260,490
事業活動支出計		9,661,996	10,229,608	9,760,608	9,925,732	10,916,351

令和 7 年度

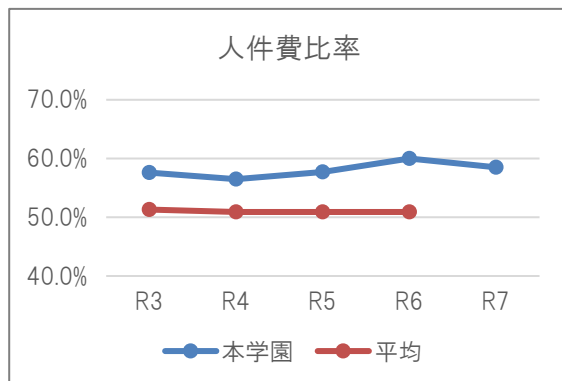
事業活動収入構成比率



事業活動支出構成比率

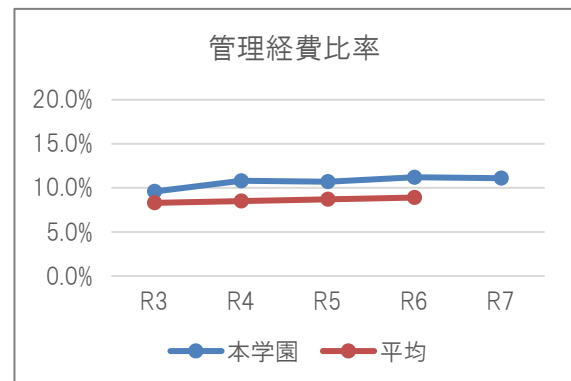


イ) 財務比率の経年比較



《解説》

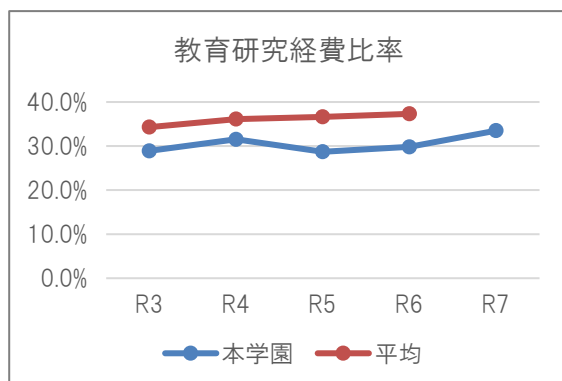
人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であることから、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因ともなる。教職員 1 人当たり人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。



《解説》

管理経費の経常収入に占める割合である。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のための支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。

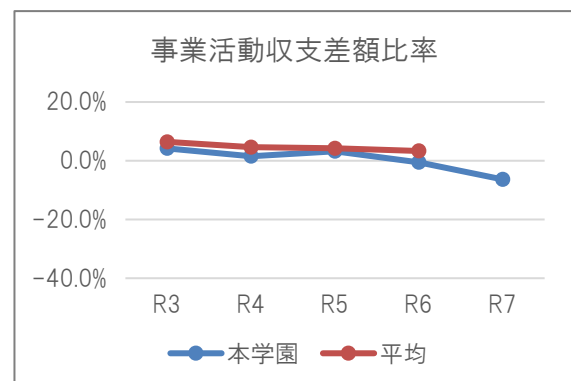
なお、管理経費と教育研究経費の区分、両者を合計した経費の支出状況や減価償却の程度等にも留意が必要である。



《解説》

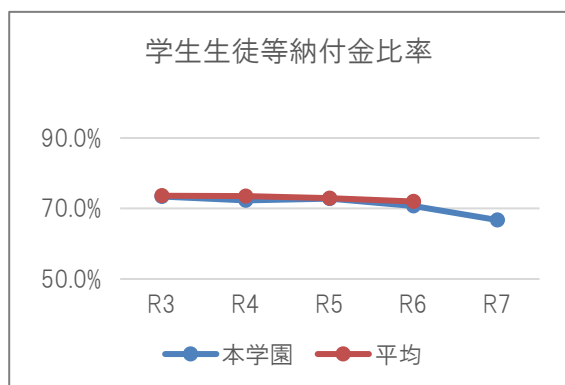
教育研究経費の経常収入に占める割合である。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え、教育研究用固定資産に係る減価償却額が含まれている。

これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。



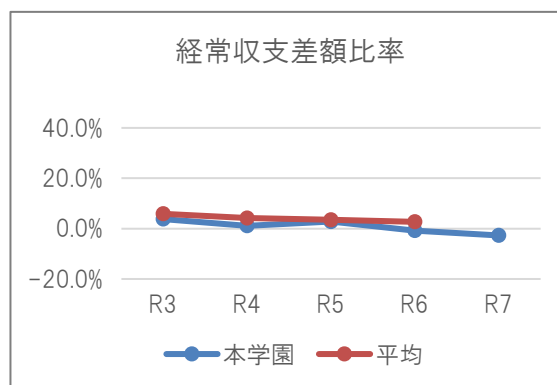
《解説》

事業活動収入に対する基本金組入前の当年度収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資本が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。



《解説》

学生生徒等納付金の経常収入に占める割合である。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることの少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。



《解説》

事業活動収支計算書の臨時的要素を除いた経常的な活動に関する部分に着目した比率である。

この比率がプラスで大きいほど経常的な収支は安定していることを示すが、逆にこの比率がマイナスになる場合は、学校法人の経常的な収支で資金の流出が生じている可能性を意味するため、将来的な学校法人財政の不安要素となる。

※「平均」は日本私立学校振興・共済事業団が発行する「今日の私学財政」より抽出

(2) その他の決算状況

①有価証券の状況

種類	会社名	貸借対照表計上額
出資金	有限会社シテンノウジワーク	2,700,000 円
社債	三菱 UFJ フィナンシャルグループ	100,000,000 円
合 計		102,700,000 円

②借入金の状況

借入先	期末残高	返済期限	摘要
市中金融機関	302,500,000 円	R10. 11. 16	—
	862,504,000 円	R9. 11. 30	当初4年固定
合 計	1,165,004,000 円		

③寄付金の状況

	内訳	金額
四天王寺大学・ 短期大学部	四天王寺大学・短期大学部後援会	70,555,536 円
	四天王寺大学・短期大学部同窓会	2,100,000 円
	教育活動活性化ならびに教育環境の整備推進事業	391,553 円
	現物寄付金（図書・機器備品）	6,947,257 円
四天王寺高校・中学校	四天王寺高校・中学校後援会	131,700,000 円
	教育振興協力金	26,500,000 円
	学校協力金	8,170,000 円
	卒業記念品代他	314,400 円
	教育活動活性化ならびに教育環境の整備推進事業	1,195,000 円
	後援会文化祭売上金	1,306,410 円
	特別寄付金	1,000,000 円
	現物寄付金（図書他）	1,057,518 円
四天王寺東高校・ 中学校	四天王寺東高校・中学校後援会	27,400,000 円
	教育振興協力費	5,100,000 円
	学校協力金	2,550,000 円
	卒業生からの記念品	192,000 円
	クラブ更衣室建築に係る寄付金	2,440,000 円
四天王寺小学校	四天王寺小学校後援会	11,100,000 円
	教育振興協力費	4,800,000 円
	学校協力金	10,850,000 円
	卒業生からの記念品	90,000 円
	たいし合唱団クラウドファンディング	465,000 円
	徳島大正銀行からの寄付金	200,000 円

④補助金の状況

	内訳	金額
四天王寺大学・ 短期大学部	高等教育修学支援制度に係る授業料等減免費交付金	888,384,800 円
	私立大学等経常費補助金	368,378,000 円
	私立学校施設整備費補助金	0 円
	大阪府結核対策費補助金	791,189 円
四天王寺高校・中学校	大阪府私立高等学校等経常費補助金	647,483,000 円
	大阪府私立高等学校等授業料支援補助金	329,264,000 円
	大阪府私立高等学校等教育振興補助金	430,000 円
	大阪府私立高等学校等就学支援金事務費交付金	1,404,735 円
	理科教育整備費等補助金	160,000 円
	私立大学等研究設備整備費等補助金	11,996,000 円
	私立学校施設整備費等補助金	12,124,000 円
	大阪府私立学校物価高騰対策一時支援金	3,564,000 円
	大阪市結核定期健康診断補助金	35,108 円
四天王寺東高校・ 中学校	大阪府私立高等学校等経常費補助金	269,734,000 円
	大阪府私立高等学校等授業料支援補助金	149,218,300 円
	大阪府私立高等学校等就学支援金事務費交付金	584,685 円
	大阪府私立高等学校等教育振興補助金	712,000 円
	大阪府結核対策費補助金	126,720 円
	大阪府私立学校物価高騰対策一時支援金	1,260,000 円
四天王寺小学校	大阪府私立高等学校等経常費補助金	82,962,000 円
	大阪府私立高等学校等教育振興補助金	427,000 円
	大阪府私立学校物価高騰対策一時支援金	270,000 円

⑤関連当事者との取引の状況

ア) 関連当事者

(単位 円)

属性	役員法人等の 名称	住所	資本金又は 出資金	事業内容 又は職業	取引の内容	取引金額
関係法人	宗教法人四天王寺	大阪府大阪市 天王寺区	—	宗教法人	無償の土地使用、授戒灌頂費用・ 経供養の御法禮支払、カウンセリ ング・秋季大学共催分担金	195,000
関係法人	宗教法人 四天王寺事業会計	大阪府大阪市 天王寺区	—	宗教法人	物品の購入	642,430
関係法人	社会福祉法人 四天王寺福祉事業団	大阪府大阪市 天王寺区	—	老人福祉 児童福祉 障害者施 設、病院	実習謝礼の支払、 健康診断医師謝礼支払	85,140
関係法人	有限会社 シテンノウジワーク	大阪府大阪市 天王寺区	省略	省略	省略	省略

イ) 出資会社

(単位 円)

法人名称	事業内容	出資金の額	学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合並びに株式等の入手日
有限会社 シテンノウジワーク	損害保険事業 旅行事業 給品・購買事業 四天王寺 スポーツクラブ	3,000,000	学校法人の出資額 2,700,000 円 2,700 口 昭和 57 年 4 月 26 日 490,000 円 490 口 平成 7 年 7 月 31 日 2,210,000 円 2,210 口 総出資金額に占める割合 90%

(3) 経営状況の分析

①学校法人四天王寺学園の経営状況の分析

令和 7 年度決算においては、学生生徒等納付金収入が減少傾向にある一方で、高等教育の修学支援新制度拡充に伴う経常費等補助金の増加により、教育活動収入全体では一定水準を維持した。しかしながら、教育研究経費及び管理経費の増加に加え、特別支出の増加も影響し、基本金組入前当年度収支差額は△655,861 千円、経常収支差額は△277,727 千円となり、厳しい収支状況となった。

今後も時代の変化に合わせた改革に取り組むとともに、聖徳太子の教えである「和の精神」「利他の精神」を基にした教育研究活動を展開していく。

各学校の経営上の成果と課題等は、以下のとおりである。

②経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

【四天王寺大学・短期大学部】

経営上の成果（実績）

・学生募集広報施策の強化

オープンキャンパススタッフ制度を新設し、学生スタッフに対して面接選考及び外部講師による継続的な研修を実施した。その結果、来場者対応力及び満足度が向上し、高校生・保護者に対する大学イメージ向上につながった。また、岡山県、香川県、徳島県及び高知県を対象とした無料送迎バスの運行や、沖縄・愛媛での地方オープンキャンパス開催等、遠方地域に向けた施策を実施し、新たな志願者層への訴求を図った。さらに、高大連携事業として交流 DAY や模擬授業等を実施し、高校段階からの認知向上及び関係強化を推進した。

・教育改革及び教学マネジメントの推進

100 分授業・14 回授業制度を導入し、学生の主体的学修や課外活動、教員の研究活動促進を図る教育環境整備を進めた。また、「基礎教育科目」及び「共通教育科目」を再編し、新たに「教養教育科目」として全学的な統一を実施した。加えて、情報系科目の新設、人権教育の充実、語学教育の再編等を通じて、社会ニーズや学生ニーズを踏まえた

教育内容の充実を図った。

- ・学生支援及びキャリア支援体制の充実

高等教育の修学支援新制度への継続対応に加え、学生交流支援、生活支援、保護者連携強化等、多面的な学生支援施策を実施した。また、キャリア支援においては、LINE を活用した情報発信や面談予約体制の整備、リモート面接対応スペースの整備、SPI 対策及び公務員試験対策強化等を実施し、学生の利便性向上及び就職支援体制の充実を図った。

- ・地域連携・社会貢献活動の推進

地域連携・研究推進センターを中心として、自治体、地域団体及び民間事業者等と連携した地域活性化事業を推進した。学生参画型プロジェクトや公開講座、シンポジウム等を通じて、地域社会への貢献及び実践的教育機会の創出を図った。さらに、地域経済研究所「エリアデザイン・ラボ」を創設し、地域課題解決及び産学官連携の拠点整備を進めた。

- ・大学運営基盤及び DX 推進への取組

施設設備の計画的改修、省エネルギー対策としての LED 化工事等を実施し、安全性向上及びランニングコスト削減を図った。また、「生成 AI で変わる大学業務と教育実践」をテーマとした FD・SD 研修を実施し、教職協働による DX 推進及び業務効率化に向けた意識醸成を図った。

課題

- ・学生募集環境の厳しさへの対応

18 歳人口減少に伴い、大学間競争は一層激化している。オープンキャンパス施策や高大連携事業等に一定の成果が見られる一方で、学科・専攻間で志願者数に差が生じており、学部学科ごとの魅力発信強化及び広報戦略の精緻化が課題となっている。

- ・教育改革の効果検証及び質保証

100 分授業・14 回授業制度や教養教育科目再編については、導入初年度として大きな混乱はなかったものの、学生の学修成果や満足度等について継続的な検証が必要である。また、教学改革の推進に伴い、教育の質保証及び内部質保証体制の強化が求められる。

- ・教職員負担及び業務効率化

教学改革、学生支援及び地域連携活動等の拡大に伴い、教職員の業務負担は増加傾向にある。生成 AI や ICT ツール活用等による業務効率化及び DX 推進を継続的に進める必要がある。

- ・地域連携事業の継続性及び発展性

地域連携活動については多様な成果が見られる一方で、単年度事業にとどまらない継続的な地域課題解決や、教育・研究との有機的連携強化が求められる。

今後の方針・対応方策

- ・学生募集力及びブランド力の強化

オープンキャンパス、高大連携事業、SNS・動画等を活用した情報発信をさらに強化するとともに、学科・専攻ごとの特色を明確化し、ターゲット層に応じた募集広報戦略を推進する。また、遠方地域への広報施策についても継続し、新たな志願者層の開拓を図

る。

- ・教育改革及び教学マネジメントの深化

100 分授業制度及び教養教育改革について、学生アンケート等による検証を行い、教育内容及び運営方法の改善につなげる。また、情報教育、キャリア教育及び実践型教育を強化し、社会ニーズに対応した教育課程の充実を図る。

- ・学生支援及びキャリア形成支援の充実

修学支援制度への適切な対応を継続するとともに、学生生活支援、メンタルサポート、キャリア支援体制をさらに充実させ、学生満足度及び就職力向上を図る。加えて、DX を活用した情報提供及び相談体制の高度化を進める。

- ・地域連携・産学官連携の強化

「エリアデザイン・ラボ」を中心として、自治体、企業及び地域団体との連携を深化させ、地域課題解決型教育・研究を推進する。また、学生参画型プロジェクトを拡充し、「地域に開かれた大学」としての役割強化を図る。

- ・大学運営及び DX 推進体制の整備

施設設備の計画的更新及び省エネルギー対策を継続するとともに、生成 AI や ICT ツールを活用した業務改善を推進する。

【四天王寺高等学校・中学校】

令和 7 年度においても一定数の入学生を確保し、安定的な収入を維持している。一方で、同年度には大幅な給与改定を実施した。今後は、物価高騰に伴う光熱水費等の経費増加および上昇傾向にある人件費を踏まえ、引き続き生徒数の確保に注視するとともに、予算編成の精度向上と経費支出の抑制に努め、経営の安定化および施設・設備の充実を図っていく必要がある。また、令和 8 年度からは、築 63 年を経過した 4 号館の建替え事業が本格的に開始される予定であり、建設費用が高騰する状況下において、特定資産の残高に十分留意しながら、安定的な資金の積み立てを進めていく。

【四天王寺東高等学校・中学校】

四天王寺学園中学校・四天王寺学園高等学校は、令和 2 年度に従前からの生徒募集等に対する分析を踏まえた総合改革として、校名を『四天王寺東高等学校・四天王寺東中学校』へ変更し、カリキュラムやコース基準等の変更に伴い、現コースとの区分化を図るため、コース名を「進学・特進・S 特進コース」から『Ⅰ・Ⅱ・Ⅲコース』とし、内部・外部隔てのない効率的なクラス分けを実施し、多様な進路に対応できる構成とした。また、カリキュラムを週 37 コマから週 34 コマに変更したことに伴い、納付金を減額改定する等、既存の取り組みに捉われることなく、総合改革を進めて生徒募集を最優先課題として取り組んだ。

また、令和 5 年度には四天王寺東中学校の S 特進コース、進学コースを S 特進コース、特進コースに改編した。

改革により、高等学校において一時は募集定員以上の新入生を迎え入れる状況となった。しかしながら、令和 5 年度には新入生が大きく定員を割り、生徒募集に苦戦した。令和 6 年

度の入学生については、大阪府の授業料完全無償化への移行の影響もあり、募集定員を満たしたものの、令和7年度以降の新入生については再び募集定員に満たない状態となっている。中学校では、令和8年度の新入生は前年度を上回ることができたが、定員を大きく下回っている状態である。

進学面では、総合改革後の入学生の卒業4期生を輩出し、多くの生徒が、それぞれ希望の進学先へ進学できる状態となっている。環境面では、令和8年度夏季に「クラブ更衣室」の完成を目指すなど、今後も生徒の学習及び諸活動において、ひとつひとつの学習、諸活動に全力で取り組む環境を整えながら、放課後の個別学習指導等、生徒と向き合う丁寧な教育を実践し、魅力ある学校づくりに努めていく。

【四天王寺小学校】

平成21年度、『四天王寺学園小学校』として開校し、平成25年度に完成年度を迎えたが、少子化による入学児童数の減少傾向にある中で、平成29年度に「変わる！宣言」と掲げた大規模な教育改革を実施し、校名を『四天王寺小学校』へと変更し、6ヵ年完結型の小学校として新たにスタートを切った。改革の4本柱となっている「探究型学習」「英語教育」「塾(日能研)との連携」「アフタースクール」については、令和8年度の新入生が増加していることから、一定の評価が得られていると思われる。「英語教育」の具現化では、今年度もハワイ短期研修を実施した。「有名私立(国立)難関中学校への入学をめざす小学校へ」の取り組みである中学受験塾「日能研」と連携は、令和2年度から3・4年生を対象とした「学習塾講座」、令和4年度からは5・6年生において、「日能研」講師と本校教員による「チーム・ティーチング授業」を実施した。さらに今年度からは受験への対応として、4年生の2月からと前倒しとした。令和6年度からは2～5年生を対象に「読解力養成講座」を新設し、読解力・表現力の向上を図っており、結果として、「変わる！宣言」後の4年目の入学生で、令和8年3月の卒業生においても、それぞれの児童が希望する、多様な進学先へ進学できる状態となった。

児童募集面では、受験生、新入生は増加傾向であるものの、大変厳しい状況は変わっておらず、定員(90名)を大きく下回っている状態である。今後も改革の4本柱の充実だけでなく、教育内容のより一層の充実、魅力ある学校づくりに努め、定員の確保に努めていく。